

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	発達心理学概論 (Introductin to Developmental Psychology)						科目分類	専門科目	
担当教員	中村 淳子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>誕生から死に至るまでの人間発達について考えるのが(生涯)発達心理学である。本講座では、各ステージの特徴ばかりでなく、連続性と独自性も踏まえて人生の全体像を見据えて発達を考えていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 発達心理学の理論や方法論を学び、実践への活用を考える。 2. 乳児期～老年期までの発達の特徴を知り、発達支援や人間発達について考える。 3. 発達障害について理解し、その支援方法を学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	発達心理学の意義一本講義の概要の説明					事前：シラバスの確認 事後：何を学ぶかのまとめ		講義 70分 質疑 20分	
2	発達心理学の基本理解					事前：資料を読む 事後：意義と概要を復習		講義 70分 振り返り 20分	
3	発達の規定要因—遺伝と環境					事前：資料を読む 事後：規定因のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
4	発達の段階と発達課題					事前：資料を読む 事後：発達課題のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
5	胎児期～児童期の発達と障害					事前：資料を読む 事後：障害の理解とまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
6	アタッチメント(愛着)の形成					事前：資料を読む 事後：愛着の理解とまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
7	親子関係—子どもがいる家族のライフサイクル					事前：資料を読む 事後：親子関係のまとめ		講義 50分 討議 40分	
8	遊びの発達—遊びから見る認知発達					事前：資料を読む 事後：遊びの発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
9	ことばとコミュニケーションの発達					事前：資料を読む 事後：言語発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
10	社会性の発達—心の理論、道徳性の発達					事前：資料を読む 事後：社会性発達のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
11	思春期・青年期の発達—アイデンティティの形成					事前：資料を読む 事後：identity形成のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
12	自己意識の成熟とアイデンティティの形成—進路選択とモラトリアム					事前：資料を読む 事後：青年期発達のまとめ		講義 50分 討議 40分	
13	成人期の発達—成人期への移行とライフコース選択					事前：資料を読む 事後：移行期の理解とまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
14	老年期の発達—統合とサクセスフルエイジング					事前：資料を読む 事後：老年期心理のまとめ		講義 50分 討議 40分	
15	発達アセスメントと発達障害の理解と支援—発達検査・知能検査 他—					事前：資料を読む 事後：アセスメントのまとめ		講義 30分 演習 60分	
<p>教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。</p>					<p>参考文献：</p> <p>無藤隆/中坪史典/西山修編著 発達心理学 ミネルヴァ書房 高橋道子/藤崎真知代/仲真紀子/野田幸江著 新曜社 柏木恵子著 子どもも育つおとなも育つ発達の心理学 萌文書林</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間を設ける。単位によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらいたい。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてもらいたい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。水曜日の昼休み。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	発 達 と 学 習 の 心 理 (Psychology of Development and Learning)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 授 業 で は、乳 幼 児 期 の 発 達、動 機 付 け 理 論、学 習 理 論、行 動 分 析 学 な ど の 心 理 学 の 基 礎 か ら、子 ども を 理 解 す る 切 り 口 を 提 供 す る。									
授 業 目 標 : 本 講 義 の 目 標 は、子 ども の 発 達 の プ ロ セ ス や 学 習 の メ カ ニ ズ ム を 理 解 し、子 ども の 発 達 段 階 や 個 々 の 特 性 に あ っ た 支 援 方 法 を 考 え る こ と が で き る よ う に な る こ と で あ る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後 : 授 業 の 見 通 し を つ け る			講 義 ・ 演 習
2	発 達 す る と は ど う い う こ と な の か : 生 涯 発 達 の 中 に 乳 幼 児 期 を 位 置 付 け て 考 え る					事 前 : 自 分 の 幼 少 期 に つ い て 親 な ど に 聞 い て み る 事 後 : 「 発 達 」 に つ い て 自 分 の 考 え を ま と め る			講 義
3	生 命 の 芽 生 え か ら 誕 生 ま で					事 前 : 出 産 を 経 験 し た 人 に、妊 娠 か ら 出 産 ま で の 話 を 聞 い て み る 事 後 : 胎 児 の 発 達 に つ い て 学 ん だ こ と を ま と め る			講 義
4	乳 幼 児 の 発 達 : 認 知 的 発 達					事 前 : 乳 幼 児 を 見 かけ た ら、そ の 様 子 や 親 子 間 の 関 わ り を 観 察 し て み る 事 後 : 乳 幼 児 の 発 達 に つ い て 学 ん だ こ と を ま と め る			講 義
5	乳 幼 児 の 発 達 : 関 係 性 の 発 達					事 前 : 乳 幼 児 を 見 かけ た ら、そ の 様 子 や 親 子 間 の 関 わ り を 観 察 し て み る 事 後 : 乳 幼 児 の 発 達 に つ い て 学 ん だ こ と を ま と め る			講 義
6	愛 着 : ア タ ッ チ メ ン ト と ボ ン デ ィ ン グ、愛 着 障 害					事 前 : 「 愛 着 」 に つ い て 調 べ る 事 後 : ア タ ッ チ メ ン ト の 個 人 差 に つ い て、そ の 要 因 と 関 連 付 け て ま と め る			講 義
7	動 機 付 け 理 論 : 内 発 的 動 機 付 け、外 発 的 動 機 付 け、学 習 性 無 力 感					事 前 : 何 が 自 分 の や る 気 に つ な が っ て い る の か 考 え る 事 後 : 様 々 な 場 面 で の 「 動 機 付 け 」 に つ い て 考 え る			講 義
8	発 達 障 害 : 自 閉 症 ス ペ ク ト ラ ム 障 害、注 意 欠 陥 多 動 性 障 害					事 前 : 発 達 障 害 に 関 し て 調 べ て み る 事 後 : 発 達 障 害 児 の 支 援 に つ い て 考 え て み る			講 義
9	学 習 の メ カ ニ ズ ム : 古 典 的 条 件 付 け、オ ペ ラ ン ト 条 件 付 け					事 前 : バ ブ ロ フ の 犬 の 実 験 に つ い て 調 べ て お く 事 後 : 様 々 な 場 面 で の 行 動 形 成 に つ い て 考 え て み る			講 義
10	行 動 分 析 学 に よ る 子 ども の 行 動 理 解					事 前 : 子 ども の 適 切 ・ 不 適 切 な 行 動 に は ど の よ う な も の が あ る か 考 え る 事 後 : 子 ども の 行 動 形 成 の メ カ ニ ズ ム に つ い て 考 え る			講 義 ・ 演 習
11	行 動 分 析 学 に よ る 子 ども の 行 動 形 成					事 前 : 形 成 ・ 消 去 し た い 子 ども の 行 動 を 考 え る 事 後 : 上 記 子 ども の 行 動 を ど の よ う に 形 成 ・ 消 去 す る の か 考 え る			講 義 ・ 演 習
12	こ ん な と き ど う す る ? : 集 団 場 面 で の 関 わ り					事 前 : 幼 稚 園 ・ 保 育 園 で 気 に な る 子 ども の 行 動 と は 何 か 考 え る 事 後 : よ り 適 切 な 行 動 を 形 成 す る に は ど う す れ ば い い の か 考 え る			講 義 ・ 演 習
13	こ ん な と き ど う す る ? : 育 児 支 援					事 前 : 乳 幼 児 育 児 期 の 母 親 は 子 ども の ど の よ う な 行 動 に 困 っ て い る の か 考 え る 事 後 : 上 記 問 題 に ど の よ う に ア ド バ イ ス す れ ば 良 い の か 考 え る			講 義 ・ 演 習
14	グ ル ー プ で の 事 例 検 討 ・ 発 表					事 前 : こ れ ま で の 授 業 内 容 に 基 づ き、検 討 し た い 事 例 を 考 え て お く 事 後 : 発 表 資 料 の 作 成			講 義 ・ 演 習
15	発 表 会					事 前 : 発 表 資 料 の 作 成 事 後 : 子 ども の 発 達 と 学 習 に つ い て 自 分 の 考 え を ま と め る			演 習
教 本 : な し。授 業 中 に 資 料 を 配 布 す る。					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、テ ス ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 に は、グ ル ー プ ワ ー ク、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。毎 回 の 講 義 終 了 時 に は、コ メ ン ト ペ ー パ ー に 講 義 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

は

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	比 較 文 化 論 I (Comparative Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇ 比較文化論 I の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19~24 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コミュニケーション ② 想像/創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24~31 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英語帝国主義~日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108~117 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117~134 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135~144 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非言語 ② 沈黙の意味~日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144~152 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時間・空間-記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。					事前：教本 pp.152~157 精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	まとめ ・ 比較文化論 I の内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション -多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 に 課 小 レポ ー ト (40%) 及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	比 較 文 化 論 II (Comparative Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	比 較 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇比較文化論IIの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。					事前：教本 pp.83～95精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。					事前：教本 pp.95～108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。					事前：教本 pp.37～50精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。					事前：教本 pp.50～59精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例検討する。					事前：教本 pp.61～90精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。					事前：教本 pp.90～108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	文化のポリテイクス ① 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。					事前：教本 pp.159～169精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	グローバル化の行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。					事前：教本 pp.181～188精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	グローバル化の行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。					事前：教本 pp.189～192精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	グローバル化の行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。					事前：教本 pp.192～205精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	研究発表1 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
13	研究発表2 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
14	研究発表3 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
15	まとめ ・比較文化論IIの総括とともに議論を深める。					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 の 小 レ ポ ー ト (40%) 及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									



開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	東アジアの文化史 (Cultural History of East Asia)						科目分類	専門科目							
担当教員	伊藤 幹彦														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
<p>授業概要：東アジアの文化史の授業では、わかりやすい講義と口頭Q&Aと討論会とレポートなどのアクティブ・ラーニング（主体的・対話的学び）によって、自己肯定感を高め、人格形成（モラルの向上）をさせ、人間力（力強く生きていくための力）を磨く。東アジアの文化つまり台湾の儒教思想を論じ、道徳心を高め、人徳者となる道を指し示す。生きる力（自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心、健康、知・徳・体）を育む。私伊藤幹彦の台湾居住16年（うち3年半で国立台湾大学で博士号を取得、うち11年台湾の大学で准教授）の経験から学んだ台湾人の心の中にある儒教思想も説明する。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているため、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。</p> <p>授業目標：孔子の誕生以来、『論語』や『孟子』などを通して、約2500年間にわたって、中国の儒教思想は、家庭教育と学校教育と社会教育などを通じて、現在の台湾人や中国人の心に受け継がれているので、これらの東アジアの交流と文化（台湾の文化、台湾の儒教思想）の概念の習得を目標とする。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	◎
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
	○	◎													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	東アジアの文化史（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：東アジアの交流と文化の下読みをする。事後：東アジアの交流と文化のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。								
2	台湾の思想(1)（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。								
3	台湾の思想(2)（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
4	台湾の思想(3)（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
5	台湾の思想(4)（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
6	台湾の思想(5)（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
7	台湾の思想(6)（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
8	孔子の生涯の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：孔子の生涯の下読みをする。事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。								
9	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。			事前：五倫五常の下読みをする。事後：五倫五常のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
10	台湾の輪廻思想、台湾の縁起思想、死生学研究の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明40分。ディスカッション40分。アンケート10分。								
11	『論語』(1)（『学ぶ』とは何か）（幸福になるために）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(1)の下読みをする。事後：『論語』(1)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
12	『論語』(2)（人徳者と知識人）（人間を磨く）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(2)の下読みをする。事後：『論語』(2)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
13	『論語』(3)（若者との対話）（人生論）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(3)の下読みをする。事後：『論語』(3)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
14	『論語』(4)（孔子の生き方）（愛と死と孝）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(4)の下読みをする。事後：『論語』(4)のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭Q&A10分。								
15	東アジアの文化史のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：東アジアの文化史のまとめの下読みをする。事後：東アジアの文化史のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。								
<p>教本：プリントを配布する。 参考文献：中国文化事典編集委員会(編)、竹田晃(編)、『中国文化事典』、丸善出版、2017年、¥22,000。加地伸行、『増補版 論語』、講談社、2009年、¥1,793。貝塚茂樹、『孟子』、講談社、2004年、¥1,155。</p>															
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。															
<p>学生へのアドバイス：儒教思想の授業を通じて、君の徳性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてほしい。授業を通して学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー、「できるという信念があれば、必ずできるようになる」と自己肯定感で学生の皆さんのやる気を引き出し、成績を高める。頭脳の知性（東アジアの交流と文化の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。1. 東アジアの交流と文化の知識向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。</p>															
オフィスアワー：初回講義日に伝える。															

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビジネスとデータ (Data Analysis for Business)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： ビッグデータや人工知能 (AI) 技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスや AI に関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンスや AI に関する知識、技術を体系的に学ぶために必要となる最も基本的なデータ分析の知識の習得を目指す。具体的には、データサイエンスや AI によって社会やビジネスで起きている変化について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、社会やビジネスで活用されているデータの種類やその意味を理解し、データ分析に取り組むための基礎知識を学ぶ。									
授業目標： データサイエンスや AI による社会やビジネスの変化を理解するとともに、活用領域の広がり理解する。データの種類の種類やその意味を理解するとともに、データの発現場 (社会やビジネス) を理解した上で、データの基本的な特徴を説明できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、関連授業の紹介 本授業とデータサイエンスや AI 関連科目について説明					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	社会やビジネスで起きている変化 I ビッグデータ、AI による変化とビジネスに与える影響					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
3	社会やビジネスで起きている変化 II ICT、IoT、DX による変化とビジネスに与える影響					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
4	社会やビジネスで起きている変化 III Society 5.0 による活用領域の広がりがビジネスに与える影響					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
5	データの種類と意味 データの分類と定義について理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
6	情報メディアの種類と意味 情報メディアの分類とその特徴について理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
7	データの比較 データの比較により、データの意味を理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
8	データの比率 比率の算出により、データの特徴を理解する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
9	データの可視化 I 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
10	データの可視化 II 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
11	ビジネスデータの入手と理解 I 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
12	ビジネスデータの入手と理解 II 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
13	ビジネスデータの入手と理解 III 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
14	ビジネスデータの入手と理解 IV 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料を復習し、課題を実施する		講義 30分 演習 60分	
15	ビジネスデータの入手と理解 V 業界のビジネスデータを入手し分析結果をプレゼンする					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義 10分 プレゼン 80分	
教 本： 指定しない					参 考 文 献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジネストラベル論 (Business Travel)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安本 達式								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 出張や会議出席など業務を目的とする旅行であるビジネストラベルについて考察する。MICE（会議 Meeting、企業報酬・研修旅行 Incentive、国際会議 Convention、国際見本市・展示会 Event/Exhibition）、Bleisure（ビジネス+レジャー）、Workaition（ワーク+バケーション）の意義について考察する。									
授業目標： 1. ビジネストラベルの現状と今後の可能性を理解する。 2. ビジネストラベル誘致による地域活性化効果を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス・ビジネストラベル論で学ぶことを説明する。					事前：なし 事後：ビジネストラベル概観		講義60分、質疑20分、感想コメント記入10分	
2	【ビジネストラベルの変遷と規模】 ビジネストラベルの起こりと変遷、規模について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：関連用語の下調べ 事後：歴史・市場の考察		講義80分、小テスト10分	
3	【MICE】 MICEとは何か、その歴史、関連産業等のMICEの全体像について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICEの下調べ 事後：MICEの全体像考察		講義80分、小テスト10分	
4	【MICE】 日本におけるMICEの変遷について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICEの歴史の下調べ 事後：MICE取組背景考察		講義80分、小テスト10分	
5	【MICE】 日本のMICE政策について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE政策の下調べ 事後：MICE政策意義考察		講義80分、小テスト10分	
6	【MICE】 MICE誘致・開催効果について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE事例の下調べ 事後：MICE誘致効果考察		講義80分、小テスト10分	
7	【MICE】 日本のMICE事例について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE事例の下調べ 事後：MICE開催効果考察		講義80分、小テスト10分	
8	【MICE】 世界のMICEの動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE動向の下調べ 事後：MICEの世界動向考察		講義80分、小テスト10分	
9	【MICE】 今後のMICEビジネスについて解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE産業の下調べ 事後：MICEビジネス考察		講義80分、小テスト10分	
10	【Bleisure】 Bleisureとは何か、生まれた背景と現状について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Bleisureの下調べ 事後：出張+レジャーの考察		講義80分、グループワーク10分	
11	【Bleisure】 Bleisureの意義、今後の可能性について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Bleisureの動向下調べ 事後：Bleisureの今後考察		講義60分、小テスト30分	
12	【Workaition】 Workaitionとは何か、生まれた背景と現状について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Workaitionの下調べ 事後：仕事+休暇の考察		講義80分、小テスト10分	
13	【Workaition】 日本におけるWorkaitionの取組について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Workaition施策下調べ 事後：Workaition施策考察		講義80分、小テスト10分	
14	【Workaition】 日本におけるWorkaitionの意義、今後の可能性について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Workaition動向下調べ 事後：Workaitionの今後考察		講義80分、小テスト10分	
15	【ビジネストラベルの今後】 これまでの学習・小テスト内容をもとに、ビジネストラベルの展望や可能性など今後考えていくべきことをまとめる。					事前：配布プリントの再読 事後：今後の探求方向の考察		講義70分、小レポート20分	
教本： 各回プリント配布					参考文献： 適宜紹介				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 業務を目的とした旅行を通して、観光への期待や観光が果たすべき役割について考えてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ビジネス法 I (Business Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ 私法学Ⅱ (同時履修も含め、好ましい。)							
	そ の 他	なし							
授業概要： 商法は、民法の特別法といわれます。講義の中心となるのは主に商法総則・会社法総則となりますが、ビジネス法を強く意識した展開とします。									
授業目標： 商人、企業形態、商人の施設、そして、民法ないし民事法を強く意識した講義とし、法的ものの見方、ビジネス実務との関連を身につけるようにすることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。私法の特徴 (概要) を示し、私法学Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
2	商法を中心とするところ、商法・会社法とは何か、商法の意義および会社法の意義について考察する。加えて、商法の法源を概説する。			事前：ビジネス法とは何かについて考え、加えて、商法の意義および会社法の意義等について確認する。 事後：商法の意義および会社法の意義等について確認し、ビジネス法とは何かを考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
3	民法と商法・会社法の間を概観し、企業組織法としての商法、企業取引法としての商法について概説する。			事前：民法と商法・会社法の間を概観し、企業関係法ないしビジネス法について考察する。 事後：民法と商法・会社法の間を概観し、加えて、企業関係法ないしビジネス法について考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
4	商人および商行為について概観し、企業形態および商人資格の得喪等について概説する。			事前：商人、商行為、そして、企業形態および商人資格の得喪について確認する。 事後：商人、商行為、そして、企業形態および商人資格の得喪について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
5	商号について、考察する。商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について概説する。			事前：商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について確認し、商号について考察する。 事後：商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について確認し、商号について考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
6	名板貸および名板貸責任について概観する。名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について概説する。			事前：名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について確認する。 事後：名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
7	営業および営業譲渡について概観する。営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果について概説する。			事前：営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果について確認する。 事後：営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
8	商業使用人について概観する。商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について概説する。			事前：商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について確認する。 事後：商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
9	代理商について概観する。代理商の意義、代理商に関する特別等について概説する。			事前：代理商の意義、代理商に関する特別等について確認する。 事後：代理商の意義、代理商に関する特別等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		

10	商業帳簿について概観する。商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について概説する。	事前：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の保存および提出について確認する。 事後：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	商業登記制度について概観する。商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について概説する。	事前：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認する。 事後：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	民法上の組合と営利企業形態について概観する。無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について概説する。	事前：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認する。 事後：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	企業の代表者（役員等）と企業との法的地位について概観する。企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務および責任等について概説する。	事前：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認する。 事後：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
14	債権・債務等の移転と組織再編について概観する。特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について概説する。	事前：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認する。 事後：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	企業倒産と破産手続、債権者病度の原則について概観する。企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について概説する。	事前：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認する。 事後：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
教本： 「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。	
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジネス法Ⅱ (Business Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	新城 将孝								
履修条件	前提科目	私法学Ⅰ 私法学Ⅱ ビジネス法Ⅰ (同時履修も含め、好ましい。)							
	その他	なし							
授業概要： 商法は、民法の特別法といわれます。講義の中心となるのは主に商取引法となりますが、ビジネス法を強く意識した展開とします。									
授業目標： 商取引法を中心としますが、民法ないし民事法を強く意識した講義とし、法的ものの見方、ビジネス実務との関連を身につけるようにすることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。ビジネスの特色(概要)を示し、ビジネス法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
2	民法の四原則、物権と債権の峻別等について概観する。権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について概説する。			事前：権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認する。 事後：権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
3	意思表示と契約の成立・効果等について概観する。意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について概説する。			事前：意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認する。 事後：意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
4	代理と代表について概観する。民事代理と商事代理、商事代理の特色等について概説する。			事前：民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認する。 事後：民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
5	売買契約について概観する。売買契約の意義、売買契約と特別法(商事売買契約)、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について概説する。			事前：売買契約の意義、売買契約と特別法(商事売買契約)、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認する。 事後：売買契約の意義、売買契約と特別法(商事売買契約)、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
6	交互計算について概観する。交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について概説する。			事前：交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認する。 事後：交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
7	匿名組合について概観する。匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について概説する。			事前：匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認する。 事後：匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
8	仲立営業について概観する。仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について概説する。			事前：仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認する。 事後：仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
9	取次営業(問屋・運送取次)について概観する。取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について概説する。			事前：取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認する。 事後：取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		

10	運送営業について概観する。物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について概説する。	事前：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認する。 事後：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	倉庫営業について概観する。倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について概説する。	事前：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認する。 事後：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	運送保険について概観する。保険とは何か、保険契約と射替契約、運送保険の特色等について概説する。	事前：保険契約と射替契約、運送保険の特色等について確認する。 事後：保険契約と射替契約、運送保険の特色等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	約款契約、企業間取引・対消費者取引等について概観する。約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について概説する。	事前：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認する。 事後：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
14	破産と担保物権について概観する。担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について概説する。	事前：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認する。 事後：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	破産と非典型担保について概観する。譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について概説する。	事前：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認する。 事後：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビジュアル情報論 (Visual Digitalization)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 情報を視覚的に伝達するためには、情報を受け取る立場に立ち、必要な内容を選択し、整理や分類した上で、わかりやすく再構築する必要がある。そのために本授業では、まず、効果的な情報整理の重要性を確認する。そのうえで、パワーポイントによるビジュアル・レイアウトの演習を通して、ビジュアル・コミュニケーションの基本的なルールを学習する。									
授 業 目 標 : PowerPointの基本的な機能と操作を説明できる／視覚伝達表現を構成する諸要素の効果を説明できる／情報の性質に応じて、適切なダイアグラム、チャートで表現できる／未整理の情報を編集し、目的に応じて論理的に構造化し、視覚情報として可視化することができる									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	ガイダンス					事前：なし 事後：配布資料を確認する			講義
2	総務省はなぜ「統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法」なるルールを作成したか					事前：資料を下読みする 事後：講義内容を復習する			講義60分 演習30分
3	ネ申エクセル問題（神Excel問題）について考察する					事前：Excelの操作をおさらいする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
4	PowerPoint基礎を学習する(1) プレースホルダー、smart図形					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
5	PowerPoint基礎を学習する(2) フォント、整列					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
6	PowerPoint基礎を学習する(3) レイアウト、視覚効果、余白、テーマ					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
7	PowerPointで テキスト配置と「囲み」の法則を学習する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
8	UI設計ツールのFigmaを体験する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
9	Figmaを用いたスマホアプリのUI設計を体験する					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
10	路線図に見るゲシュタルト／良い連続／位相図法の法則					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
11	課題：総務省のパワポ書類の改善を試みる					事前：課題の資料を確認しておく 事後：課題を完成させ、提出する			講義60分 演習30分
12	様々なデザイン指標：①Apple Human Interface Guidelines、②Material Design					事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
13	グループワーク：プロトタイプングツールによるUIデザインを体験する (1) 情報の整理					事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
14	グループワーク：プロトタイプングツールによるUIデザインを体験する (2) 視覚効果					事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分
15	総括					事前：授業で使用した資料をまとめておく 事後：課題のフィードバックを確認する			講義
教 本 : 講義内で指示する					参 考 文 献 : 講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授業での確認課題 (30%)、小テスト等 (30%)、作品制作 (40%) で評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	美術史 (Art History)						科目分類	専門科目	
担当教員	秋廣 誠								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 西洋美術史については、一般に聞きなれたキーワードを切り口として、古代から現代まで、作品が生まれた歴史的背景とその受容について、スライド等で鑑賞しながら適宜解説する。日本美術史と現代美術については、重要項目を取り扱う。</p>									
<p>授業目標： 美術作品が制作された文化的背景を説明できる。美術における歴史的な推移と代表的な作品を説明できる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／資料についての説明を行う					事前：シラバスを読む 事後：資料の復習をする		講義	
2	西洋美術史 (1) ギリシャ・ローマ					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(1)について復習する		講義	
3	西洋美術史 (2) 中世：ヨーロッパの美術の土台					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(2)について復習する		講義	
4	西洋美術史 (3) イタリアルネサンスⅠ：15世紀フィレンツェの美術					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(3)について復習する		講義	
5	西洋美術史 (4) イタリアルネサンスⅡ					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(4)について復習する		講義	
6	西洋美術史 (5) 印象主義について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(5)について復習する		講義	
7	西洋美術史 (6) 世紀末美術について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(6)について復習する		講義	
8	西洋美術史 (7) 近代の建築、工芸、彫刻、美術					事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(7)について復習する		講義	
9	現代美術 (1) おもに絵画について扱う					事前：資料を下読みしておく 事後：これまでの講義内容を纏めておく		講義	
10	現代美術 (2) 絵画以外を扱う					事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術(1)について復習する		講義	
11	日本美術史 (1) 基本的な用語、各時代の位置づけと特徴を解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術について纏めておく		講義	
12	日本美術史 (2) 国宝・重文の絵画について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(1)について復習する		講義	
13	日本美術史 (3) 国宝・重文の仏像・彫刻について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(2)について復習する		講義	
14	日本美術史 (4) 版画について解説する					事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(3)について纏めておく		講義	
15	総括を行う					事前：講義で扱った資料を概観しておく 事後：総括を踏まえて講義内容をまとめる		講義	
<p>教本： 講義内で指示する</p>					<p>参考文献： 講義内で指示する</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業での演習 (30%)、小テスト等 (30%)、レポート (40%) で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 小テスト提出方法、レポート提出方法など、少しでも不明な点があれば、早めに質問しておくこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ファイナンス法 (Finance Law)						科目分類	専門科目	
担当教員	藤原 俊雄								
履修条件	前提科目	企業組織法Ⅰ、企業契約法Ⅱを既に履修した者であること。							
	その他	なし							
<p>授業概要： 企業組織法の授業では、本学の方針どおり実施すると資金調達（ファイナンス）のところまではできないので、この授業においてその部分をカバーしようとするものである。</p>									
<p>授業目標： 1. 企業のファイナンスに関する法制度の基本について説明することができる。 2. 企業ファイナンスの現実において生じている主要な法的問題とその解決策について説明することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	この授業におけるファイナンス法とは？ 学ぶにあたって					事前：なし 事後：講義計画の確認		講義60分、質疑応答30分	
2	株式会社の資金調達の諸方法					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義60分、討論30分	
3	募集株式の発行 発行手続等について					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義60分、討論30分	
4	募集株式の有利発行（その1）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
5	募集株式の有利発行（その2）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
6	募集株式の不正発行（その1）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
7	募集株式の不正発行（その2）					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
8	不公正な払込金額で株式を引き受け者等の責任					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
9	出資履行を仮装した者の責任					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義60分、討論30分	
10	新株予約権について 新株予約権とは					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義60分、討論30分	
11	新株予約権の発行手続等					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義60分、討論30分	
12	敵対的企業買収対抗策としての新株予約権の発行					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
13	新株予約権の行使・払込み 新株予約権の不正発行					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義60分、討論30分	
14	社債とは 社債の発行条件 社債権者集会					事前：レジュメの精読 事後：講義・討論内容の確認		講義60分、討論30分	
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた資金調達上の課題について検討する					事前：これまでのノート整理 事後：まとめのノートの作成		講義60分、討論30分	
<p>教本： 教科書は用いないが、参考書として丸山秀平『やさしい会社法 [第14版]』（法学書院）などを用いてほしい。</p>					<p>参考文献： 授業中に適宜指示する。 ※学習用六法を携帯すること。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点としての小テスト（10%）、期末試験（90%）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 期末テスト（授業中に実施することもあり得る）は、持ち込みなしなので、それを承知のうえ受講すること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									



開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ファイナンシャル・プランニング I (Financial Planning I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
<p>ファイナンスは一般的に金融や財政、融資のことですが、ファイナンシャル・プランとなると、主として私たち個人に関わる金融の管理・計画となります。わかりやすくいえば貯金や税金、保険、投資、資産形成、相続のことです。本講座は身の回りのおカネ全般について講義します。FP (ファイナンシャルプランナー) 技能検定を受験する学生にもあわせて講義します。</p>									
授 業 目 標 :									
FP 受 験 レ ベ ル の 知 識 の 習 得									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：ファイナンシャル・プランニングの意味と範囲 (1) FPの説明 (2) 身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義	
2	現代社会におけるパーソナル・ファイナンス： ライフ・プランとファイナンシャル・プラン					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
3	経済環境と家計： 私たちを取り巻く経済社会の変化と家計への影響					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
4	家計管理 (1)：家計の資産と負債(短期) 収入と支出、貯蓄について					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
5	家計管理 (2)：家計の金融資産(中・長期) 預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
6	保険の経済学 (1)：保険の基本構造 保険の種類と特徴					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
7	保険の経済学 (2)：生命保険 生命のリスク・マネジメント					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
8	保険の経済学 (3)：損害保険 自動車保険について知る					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
9	保険の経済学 (4)：損害保険 火災保険と地震保険他					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
10	保険の経済学 (5)：損害保険 医療・介護保険					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
11	税金の経済学 (1)：税制概論 税金の種類と特徴					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
12	税金の経済学 (2)：所得税 所得税のしくみと実際、家族構成と所得税、控除制度					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
13	税金の経済学 (3)：税金の計算 確定申告について					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
14	税金の経済学 (4)：税金トピックス 消費税やガソリン税、補助金・助成金のあらし					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
15	本講座のまとめ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
滝澤ななみ「みんなが欲しかった！FPの教科書3級 2023-2024年」TAC 出版。 また、適宜、資料を配布します。					初回講義日に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
定期試験またはレポート (80%) 等で総合評価する。追加レポートあり。(加点する。)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
勉強する項目は比較的多いですが、どれも身近なトピックスです。必ずや今後の経済活動に役立ちます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ファイナンシャル・プランニングⅡ (Financial Planning Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : ファイナンシャル・プランニングⅠでは、主に誰もが関わるテーマを扱いました。本講座では長期的な観点のライフステージから社会保険制度と相続、さらに資産形成の領域から投資について講義します。なお、講義後にFP検定問題を扱うこともあります。									
授 業 目 標 : FP 受 験 レ ベ ル の 知 識 の 習 得									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：ファイナンシャル・プランニングの意味と範囲 (1) 資産形成とは (2) 預貯金と投資、投機 (3) 不動産と不動産					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義	
2	資産形成・管理1： (1) 不動産とは何か (2) 不動産価格 (3) 鑑定評価の方法					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
3	資産形成・管理2： (1) 宅地建物取引業法 (2) 不動産の売買契約 (3) 不動産の税金					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
4	資産形成・管理3： (1) 借地借家法 (2) 区分所有法 (3) 都市計画法 (4) 建築基準法 (5) 農地法 他					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
5	社会保険の経済学1： (1) 年金とは何か (2) しくみと問題 (3) 年金政策					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
6	社会保険の経済学2： (1) 基礎年金と厚生年金 (2) 公的年金と社会保障制度					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
7	投資と投機の経済学1： (1) 信託 (2) 安全資産としての信託、メリット、デメリット					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
8	投資と投機の経済学2： (1) 株 (2) わが国の株式市場の現況と投資の基礎					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
9	投資と投機の経済学3： (1) リスク・マネジメント (2) リスクとリターンをどう考えるか					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
10	相続1： (1) 世代交代 (2) 不可避的に訪れる相続の実際 (3) 相続の承認と放棄 (4) 遺産分割					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
11	相続2： (1) 遺言と遺贈 (2) 「遺言書」の基本と法律 (3) 税制					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
12	相続3：ケース・スタディ (1) 賢い相続はあるのか (2) 相続税 (3) 贈与税					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
13	事業継承1： (1) 会社とは何か (2) 会社の規模、種別による特徴 (3) 能力と権力					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
14	事業継承2： (1) Going Concern (2) 代替わりのケース・スタディ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
15	まとめ					事前：専門用語の理解 事後：演習問題の復習		講義	
教 本 : 滝澤ななみ「みんなが欲しかった！FPの教科書3級 2020-2021年」TAC出版。 また、適宜、資料を配布します。					参 考 文 献 : 初回講義日に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 昨 年 度 は レ ポ ー ト で 評 価 し ま し た 。 定 期 試 験 ま た は レ ポ ー ト (80%) 等 で 総 合 評 価 す る 。 追 加 レ ポ ー ト あり。(加 点 す る。)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 本 講 座 は フ ァ イ ナ ン シ ャ ル ・ プ ラ ン ニ ン グ Ⅰ の ア ド バ ン ス 版 で す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ファッション学 (Fashion Studies)						科目分類	専門科目	
担当教員	川添 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	文献を読み解く読解力が求められる。Google Classroom利用。							
授業概要： ファッションと人間、社会との関係について、ファッションをめぐる議論から学んでいく。身近なファッションも意識化して考察の対象とする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. ファッションについての理論と視点を理解する。 2. 身近なファッション現象を批判的に読み解く力をつける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「はじめに」：ファッションの捉え方、ファッション界の全体像を概観する。					事前：ファッションイメージ 事後：序の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
2	1-1章「流行」：流行と階級及び流行と模倣についての理論、コスプレ、非西洋における流行について学ぶ。					事前：あなたにとっての流行 事後：1-1章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
3	1-2章「消費」：既製服の誕生、百貨店、見せびらかしの消費、大量消費と大量生産、ファストファッションについて学ぶ。					事前：ファストファッション 事後：1-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
4	1-3章「メディア」：ファッション雑誌、ファッションショー、SNSを通してファッションについて考える。					事前：ファッション誌 事後：1-3章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
5	1-4章「コミュニケーション」：記号としてのファッション、モードという概念について学ぶ。					事前：記号のイメージ 事後：1-4章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
6	1-5章「アイデンティティ」：ファッションと社会における自己の位置づけ、外見を整える理由について学ぶ。					事前：自己とファッション 事後：1-5章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
7	1-6章「ジェンダー」：ジェンダー記号としてのファッション、制服やユニセックスファッションについて学ぶ。					事前：性差とファッション 事後：1-6章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
8・9	2-1章「民族衣装」：「民族」概念の歴史性、民族衣装、伝統としての着物について学ぶ。					事前：伝統のファッション 事後：2-1章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
10	2-2章「ストリートファッション」：ファッションと若者文化、グローバル化について学ぶ。					事前：ストリート 事後：2-2章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
11	2-11章「ブランド」：ブランディング、見せびらかし、ライセンスビジネス、中古市場について学ぶ。					事前：ブランドイメージ 事後：2-11章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
12	2-14章「リサイクルとバイオフィッション」：循環型ファッションをめざす、リサイクル、バイオマテリアルについて学ぶ。					事前：SDGs 事後：2-14章の復習		講義60分、質疑応答20分、小テスト10分	
13	まとめ：授業全体を振り返り、ファッションについての理解を深める。					事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義60分、質疑応答20分、記述10分	
14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分	
教本： 蘆田裕史他編『ファッションスタディーズ』フィルムアート社、2022年、 ¥2,200+税					参考文献： そのつど紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フィールドワーク (Fieldwork)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	質 的 調 査 法 を 履 修 し て い る こ と。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
街 へ 出 て 地 域 社 会 が 直 面 す る 課 題 を 解 決 す る 目 標 に 質 的 調 査 法 (研 究 法) を 駆 使 し 探 求 し ます。そ こ で、質 的 調 査 法 が 履 修 済 み で あ る こ と を 前 提 条 件 に し ます。な お グ ル ー プ ・ ワ ー ク が 基 本 で す か ら、原 則 と し て 欠 席 は 認 め ま せ ン。									
授 業 目 標 :									
① 地 域 社 会 を 対 象 に パ ー ト ナ ー 関 係 を 形 成 し 調 査 研 究 す る 態 度 を 育 成 す る。									
② チ ー ム ワ ー ク で 課 題 達 成 す る 協 働 関 係 力 を 学 ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義	
2	リ レ ー シ ョ ン 形 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
3	ワ ー ク デ ザ イ ン を 考 え る					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
4	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 手 順					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
5	ワ ー ク デ ザ イ ン の 実 施					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
6	リ サ ー チ マ イ ン ド の 育 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
7	プ レ ゼ ン ・ シ ー ト の 作 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
8	ワ ー ク 成 果 の 発 表					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
9	フ ィ ー ド バ ッ ク					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
10	地 域 社 会 へ の 提 言					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
11	今 後 の 課 題 解 決 へ の 展 望					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
12	自 己 ・ 他 者 ・ 社 会 と の 関 係 性 を 考 え る					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
13	フ ィ ー ル ド ワ ー ク で の 学 び と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
14	フ ィ ー ル ド ワ ー ク で 情 報 発 信					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
15	授 業 の ま と め					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『WIN-WIN-WIN ワークブック』、 菅沼憲治、菅原印刷株式会社					授 業 中 に 随 時 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 内 外 で の フ ィ ー ル ド ワ ー ク が 中 心 の 授 業 で す。学 生 相 互 の コ ラ ボ レ ー シ ョ ン を 求 め ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	物 権 法 (Property Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	法 学 / 私 法 学 I / 私 法 学 II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義では、民法第二編物権の中の所有権、物権変動を中心に講義を行ないます。物権法の全体像を概観した後、所有権と物権変動に重点を置き、用益物権をテーマとして取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。</p>									
授 業 目 標 :									
物権法の基本的な知識を習得し、所有権、物権変動といった物権法の主要領域の法的諸問題を把握し、説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	民法財産法—物権法の概要				事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	物権法定主義／物				事前：物権法定主義について調べる。 事後：物権法定主義とその根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	所有権の内容				事前：所有権の内容に関する民法の規定を調べる。 事後：資料の整理			講義60分 ディスカッション30分	
5	所有権の効力(1) 物権的請求権の種類と内容				事前：物権的請求権について調べる。 事後：物権的請求権の種類をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	所有権の効力(2) 請求権競合／返還請求権における利害調整				事前：請求権競合とは何かを調べる。 事後：返還請求権における利害調整をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	所有権の原因(1) 取得原因／取得時効				事前：契約以外の所有権の取得原因について調べる。 事後：取得時効の存在理由についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	所有権の原因(2) 原始取得／添付／付合				事前：所有権の原始原因について調べる。 事後：日本の付合法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	物権変動(1) 物権変動とは何か／契約による不動産の物権変動				事前：物権変動のメカニズムについて調べる。 事後：不動産の対第三者対抗要件についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	物権変動(2) 契約による動産物権変動の対抗要件				事前：動産物権変動の対抗要件について調べる。 事後：動産の公示、引渡しについてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	物権変動(3) 公信の原則—動産物権変動における取引安全保護				事前：公信の原則について調べる。 事後：動産の即時取得についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	共同所有関係(1) 共有				事前：共有の法律関係について調べる。 事後：共有の法律関係について調べる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	共同所有関係(2) 建物の区分所有				事前：区分所有法について調べる。 事後：建物区分所有法の特色についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	用益物権(1) 地上権／地上権と賃貸借				事前：地上権について調べる。 事後：地上権と賃貸借についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	用益物権(2) その他の用益物権				事前：地上権以外の用益物権について調べる。 事後：用益物権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教 本 :				参 考 文 献 :					
とくになし (資料を配布します)。				授 業 中 に 適 宜 指 示 し ます。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
法 学 は 複 雑 な 現 代 社 会 を ひ も と き、理 解 す る た め の 一 つ の 道 具 で も あ り ま す。日 常 的 に 社 会 の 問 題 に 目 を 配 り、何 が 問 題 な の か を 考 え る た め に、法 学 を 自 分 の 分 析 の 道 具 と し て も ら い た い と 思 い ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	物的担保法 (Real Security Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上地 一郎								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／人的担保法							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本講義では、民法第二編物権の中の担保物権を中心に講義を行ないます。まず物権法の全体像と所有権、用益物権、物権変動を概観し、担保物権のうち、最も重要な抵当権を重点に、質権や法定担保物権、非典型担保物権を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>担保物権の基本的な知識を習得し、抵当権とは何か、その法的な論点はどのようなものかについて説明できるようになること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	債権法の概要				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	抵当権(1) 物的担保法序説／抵当権とは何か				事前：物的担保について調べる。 事後：抵当権の概要についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	抵当権(2) 被担保債権／目的物(1) 抵当権の及ぶ範囲				事前：抵当権の被担保債権について調べる。 事後：抵当権の及ぶ範囲についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	抵当権(3) 目的物(2) 物上代位				事前：物上代位とは何かを調べる。 事後：物上代位についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	抵当権(4) 目的物(3) 土地と建物が別個の不動産とされることから生ずる問題				事前：法定地上権とは何かを調べる。 事後：法定地上権にまつわる問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	抵当権(5) 実行前の抵当権の効力(1) 設定者の使用収益権／第三者への利用権の設定				事前：抵当権実行前の効力について調べる。 事後：第三者への利用権の設定をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	抵当権(6) 実行前の抵当権の効力(2) 抵当権に対する侵害行為／抵当不動産の第三取得者との関係				事前：侵害に対する効力について調べる。 事後：第三取得者との関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	抵当権(7) 実行段階の問題				事前：担保不動産の競売・収益執行について調べる。 事後：担保不動産の競売・収益執行についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	抵当権(8) 抵当権の消滅				事前：一般的な消滅原因について調べる。 事後：抵当権の消滅時効についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	抵当権(9) 根抵当権				事前：根抵当権について調べる。 事後：根抵当権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	質権				事前：質権について調べる。 事後：質権の効力についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	非典型担保(1) 譲渡担保／売渡担保				事前：譲渡担保／売渡担保について調べる。 事後：譲渡担保／売渡担保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	非典型担保(2) 仮登記担保／所有権留保／その他の担保				事前：仮登記担保／所有権留保について調べる。 事後：仮登記担保／所有権留保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	まとめ				事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。				参考文献： 授業中に適宜指示します。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	フランス語 I (French I)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	平野 由里子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>フランス語に初めて接する学生を対象とし、abc から丁寧に学んでゆきます。発音の決まりと初歩的な文法の修得をめざします。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Leçon 1 文字と音 (1) アルファベとその発音					事前：なし 事後：アルファベを覚えること		講義と演習		
2	Leçon 1 文字と音 (2) 自己紹介と数字 0～10					事前：前回の復習 事後：数字10まで言えるように		講義と演習		
3	Leçon 1 文字と音 (3) 復習とヨーロッパ地図クイズ					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習		
4	Leçon 2 綴り字と発音 (1) フランス語の発音の規則					事前：前回の復習 事後：発音ルールを覚えること		講義と演習		
5	Leçon 2 綴り字と発音 (2) 町の名前を発音してみよう					事前：前回の復習 事後：町の名前読めるように		講義と演習		
6	Leçon 2 綴り字と発音 (3) 動物や植物の名前を発音してみよう					事前：前回の復習 事後：動植物の名前読めるように		講義と演習		
7	Leçon 2 綴り字と発音 (4) 発音の復習と数字 11～20					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習		
8	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (1) 家族・友人の言い方と不定冠詞					事前：P.24 単語調べ 事後：家族の言い方を覚える		講義と演習		
9	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (2) 身近なものの言い方と「～を持っています」という動詞					事前：前回の復習 事後：avoir 活用覚える		講義と演習		
10	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (3) 年齢の言い方					事前：前回の復習 事後：年齢の言い方覚える		講義と演習		
11	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (4) Leçon 3 の復習					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習		
12	Leçon 4 紹介する (1) 国籍・職業の言い方					事前：P.32 単語調べ 事後：être 活用覚える		講義と演習		
13	Leçon 4 紹介する (2) 人について尋ねる言い方					事前：前回の復習 事後：国籍・職業言えるように		講義と演習		
14	Leçon 4 紹介する (3) 人の特徴の言い方と数字 21～69					事前：前回の復習 事後：69までの数字の表を作成		講義と演習		
15	Leçon 4 紹介する (4) Leçon 4 の復習					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習		
教本：					参考文献：					
Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (10%)、平常点 (40%)、定期試験 (50%) で総合評価する。										
学生へのアドバイス： ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。										
オフィスアワー： 授業後15分程度、講師控室にいます。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	フランス語 I (French I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる(=スパイラル)ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める(発音の練習など)。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>フランス語の基礎を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	Phonétique 1ー発音					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	Leçon 1ー挨拶、自己紹介 自己紹介をする					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	Leçon 1ー挨拶、綴り、国籍 自己紹介をする					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	Leçon 2ー今住んでいるところについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	Leçon 2ー今住んでいるところについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	Leçon 3ー交通手段について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	Leçon 3ー交通手段について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	Leçon 4ーアルバイトについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	Leçon 4ーアルバイトについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	Leçon 5ーペットなどについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	Leçon 5ーペットなどについて話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	Leçon 6ー科目、先生について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	Leçon 6ー科目、先生について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	テスト					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>Moi, je...コミュニケーション A1</p>					<p>参考文献：</p> <p>Bruno Vannieuwenhuysse, Alma 出版</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等(50%)、定期試験(50%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>毎日5分でも練習しよう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	フランス語Ⅱ (French II)						科目分類	基礎科目	
担当教員	平野 由里子								
履修条件	前提科目	フランス語Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。</p> <p>授業目標：</p> <p>フランス語Ⅰを習得した学生を対象とし、フランス語の初級文法を修得することをめざします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	フランス語Ⅰの復習					事前：Leçon 4 まで見直す 事後：前期の範囲を確認しておく		講義と演習	
2	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (1) 「～に住んでいます」					事前：P.40 単語調べ 事後：habiter 活用覚える		講義と演習	
3	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (2) 「～が好きです」					事前：前回の復習 事後：aimer 活用覚える		講義と演習	
4	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (3) いろいろな動詞					事前：前回の復習 事後：er 型の活用覚える		講義と演習	
5	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (4) Leçon 5 の復習					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習	
6	Leçon 6 否定文・疑問文 (1) 「～ではありません」「～を持っていません」					事前：P.48 単語調べ 事後：否定形を理解する		講義と演習	
7	Leçon 6 否定文・疑問文 (2) 「～が好きではありません」「～しません」					事前：前回の復習 事後：er 型の否定形を理解する		講義と演習	
8	Leçon 6 否定文・疑問文 (3) 「～ですか?」「何をしますか?」					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習	
9	Leçon 7 時刻・天候を言う (1) 足し算・引き算・年齢					事前：P.56 単語調べ 事後：新有形容詞を理解する		講義と演習	
10	Leçon 7 時刻・天候を言う (2) 時刻の言い方					事前：前回の復習 事後：時刻言えるように		講義と演習	
11	Leçon 7 時刻・天候を言う (3) 天候の言い方					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習	
12	Leçon 8 行き先を言う (1) 「～へ行きます」					事前：P.64 単語調べ 事後：aller 活用覚える		講義と演習	
13	Leçon 8 行き先を言う (2) 「～から来る」					事前：前回の復習 事後：venir 活用覚える		講義と演習	
14	Leçon 8 行き先を言う (3) カフェで注文する					事前：前回の復習 事後：復習ページ提出		講義と演習	
15	これまでの復習					事前：これまでの見直し 事後：テスト勉強		講義と演習	
教本：					参考文献：				
Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅都著 駿河台出版社 ¥2,300									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (10%)、平常点 (40%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。									
オフィスアワー： 授業終了後、15分程度講師控室にいます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フ ラ ン ス 語 II (French II)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前 提 科 目	フ ラ ン ス 語 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 最大の特徴として日本語とフランス語とで指示文が書かれており、初心者でもわかりやすいという特徴があります。また、日本の学習スタイルに合うように基本フレーズを勉強し、繰り返し使わせる(=スパイラル)ことでフランス語を身につけさせるというスタイルになっています。授業中アクティブな態度を求める(発音の練習など)。									
授 業 目 標 : フランス語をもっと身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Leçon 7 ー食べ物について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	Leçon 7 ー食べ物について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
3	Leçon 8 ー家事について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
4	Leçon 8 ー家事について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
5	Leçon 9 ークラブ活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
6	Leçon 9 ークラブ活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
7	Leçon 10 ー習慣について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
8	Leçon 10 ー習慣について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
9	Leçon 11 ー週末の過ごし方について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
10	Leçon 11 ー週末の過ごし方について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
11	Leçon 12 ー時間について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
12	Leçon 12 ー時間について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
13	Leçon 13 ー休暇中の活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
14	テスト					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
15	アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教 本 : Moi, je... コミュニケーション A1					参 考 文 献 : Bruno Vannieuwenhuysse, Alma 出版				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等(50%)、定期試験(50%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎日5分でも練習しよう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	フランス語コミュニケーション (French Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	平野 由里子								
履 修 条 件	前提科目	フランス語 I 及び II を履修していること							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>フランスの世界遺産や食文化を通してフランス文化に親しむように考えられた教科書を使って、フランス語のコミュニケーションを学びます。動画や音声資料を活用して目や耳でフランス語に接し、フランス語を話すことを体験してもらいます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>フランス語の基礎を理解して、簡単なコミュニケーション力を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション～Leçon 1 自己紹介する					事前：フランス語 I・II の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
2	Leçon 2 物を指し示す					事前：1 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
3	Leçon 3 尋ねる					事前：2 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
4	Leçon 4 買い物をする					事前：3 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
5	Leçon 5 物や人について尋ねる					事前：4 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
6	Leçon 6 場所を尋ねる					事前：5 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
7	Leçon 7 ～したいと言う					事前：6 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
8	Leçon 8 興味を述べる					事前：7 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
9	Leçon 9 誘う					事前：8 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
10	Leçon 10 天候と時刻を言う					事前：9 課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
11	Leçon 11 数量を示す					事前：10課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
12	Leçon 12 比較する					事前：11課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
13	Leçon 13 過去のことを話す					事前：12課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
14	Leçon 14 仮定する					事前：13課の復習 事後：Exercices 提出		講義と演習	
15	復習					事前：14課の復習 事後：テスト勉強		講義と演習	
<p>教本：</p> <p>パリーボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅 1</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：授業目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>間違えを恐れずに、大きな声を出して練習しましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>講義の前後10分は講師控え室にあります。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	プログラミング基礎 (Programming)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論 (PCの基本的な操作については既知とする)							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
<p>授業概要：</p> <p>コンピュータは、機械の言語であるプログラムから命令されることによって動いています。このプログラムは決められたルールに基づいて動きます。そのプログラムの基本について、主にゲームを作るという目的のもと、理解する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>プログラミングの基本的なルールを理解し、プログラミング思考を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	シラバスの説明、プログラムができるまで					事前：シラバスを読む 事後：PC環境の整備		講義 60分 演習 30分	
2	プログラミングとは					事前：資料精読 事後：小テスト提出		講義 30分 演習 60分	
3	コンピュータが動く仕組み					事前：資料精読 事後：小テスト提出		講義 30分 演習 60分	
4	コンピュータの仕事の流儀					事前：資料精読 事後：小テスト提出		講義 30分 演習 60分	
5	Processingでプログラムを始めよう					事前：ソフトのインストール 事後：ソフト準備		講義 30分 演習 60分	
6	Processingで図形を描こう					事前：精読① (13-50) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
7	関数・変数					事前：精読① (51-62) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
8	画像表示					事前：精読① (62-70) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
9	乱数					事前：精読① (71-74) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
10	ランダム表示					事前：精読① (75-89) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
11	条件分岐					事前：精読① (91-105) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
12	繰り返し					事前：精読① (106-120) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
13	アニメーションのプログラム					事前：精読① (121-142) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
14	配列、ゲーム構想					事前：精読① (143-162) 事後：課題提出		講義 30分 演習 60分	
15	間違い探しゲームを作ろう					事前：発表準備 事後：小テスト		発表 90分	
<p>教本：</p> <p>『はじめてのプログラミング』(技術評論社)</p>					<p>参考文献：</p> <p>『プログラミング基礎の基礎』(技術評論社)</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>課題提出 (60%)、授業内での演習 (30%)、定期試験 (10%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>コンピュータのプログラミングはどのように動くのかの興味を持って臨んでください。毎回の課題は必ず提出してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化遺産と観光 (Cultural Heritage and Tourism)						科目分類	専門科目	
担当教員	古賀 学								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国内外の世界遺産を中心として文化遺産の保護と活用における観光のあり方について学修する。世界遺産検定取得のための講義でもあり、世界遺産の仕組み等についても学修する。									
授業目標： ①文化遺産と観光のあり方の理解 ②世界遺産検定3級・2級の取得レベルの世界遺産の知識									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	(1)文化遺産と観光の構成及び世界遺産検定の内容 ①文化遺産と観光の構成 ②世界遺産検定の内容					事前：文化遺産に関する予備知識の取得 事後：文化遺産と観光についてまとめ。		講義 70分 小テスト 20分(適宜)	
2・3	(2)世界遺産の体系 ①世界遺産とは ②世界遺産登録関連組織 ③世界遺産申請と登録の流れ					事前：ユネスコに関する調査を行う。 事後：世界遺産関連組織と世界遺産申請を復習する。		講義 70分 小テスト 20分(適宜)	
4～10	(3)日本の世界遺産 法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地、古都京都の文化財、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム、厳島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺産群、紀伊山地の霊場と参詣道、知床、石見銀山遺跡とその文化的景観、小笠原諸島、平泉・仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群、富士山・信仰の対象と芸術の源泉、富岡製糸場と絹産業遺産群、明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業、ル・コルビュジエの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、百舌鳥・古市古墳群 - 古代日本の墳墓群、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島、北海道・北東北の縄文遺跡群					事前：日本の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験(適宜)	
11～13	(4)海外の世界遺産 アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、アフリカの世界文化・自然・総合遺産					事前：海外の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験(適宜)	
14・15	(5)テーマ別世界遺産 ①文化的景観 ②戦争・紛争 ③地震 ④危機遺産 ⑤負の遺産					事前：テーマ別に世界文化遺産・自然遺産を学修する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。		講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験(適宜)	
教本： 世界遺産100（3級もしくは2級公式テキスト）授業内に一括申し込み					参考文献： 世界遺産検定公式過去問題集				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。模擬試験・検定試験は学期末試験の評価には加算しない。									
学生へのアドバイス： 世界遺産検定3級及び2級の実力をつけることをめざす。検定は年に数回行われるので受講の時期は自由である。基本は3級であるが2級受講者がいる場合は授業内に2級のための講義を設ける。もちろん受験の意思がなくても受講は可能である。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化交流史 A (History of Cultural Exchange A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学等の文化学							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本講義では、文化人類学をベースとして、文化が接触・交流する際に、どのような現象が生じるのかを基礎的な事項から考察する。文化とは何か、それが接触・交流するとはどのようなことかという視点をまずは身につけることから始めてゆく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教科書的な「文化」認識から自由になること。自分が体験した異文化交流を学問的視点から捉えなおす。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文化の新たな考え方					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	「自分」の中の異文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	赤坂憲雄『異人論』					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	文化の多重性					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	岡正雄『異人その他』					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	魔性の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	異人歓待儀礼とは					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	都市社会の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	エスニシティとは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	エスニシティとは何か(2)					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	メイサーティーンと多言語社会					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	創造される「民族」					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	文化交流と観光					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	人口移動と文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文化を理解することは、思っている以上に苦勞が多いことです。高校までののっぺりした文化の考え方を早く抜け出すことを心掛けてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 交 流 史 B (History of Cultural Exchange B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 等 の 文 化 学							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 同 じ 授 業 の A を ベー ス に、さ ら な る 交 流 の あ り 方 を 考 察 す る。同 じ 現 象 で も、視 点 が 変 化 す る こ と で 全 く 異 な る 像 が 浮 か び 上 が る こ と も 体 験 し て い た だ きたい。									
授 業 目 標 : 異 文 化 を ど の よ う に 理 解 す る か に 関 し て、自 分 の 視 点 を 確 立 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	文 化 交 流 史 A の 復 習					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
2	文 化 変 容 の 理 論					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
3	地 球 規 模 の 文 化 人 類 学					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
4	分 裂 生 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
5	分 裂 生 成 II					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
6	分 裂 生 成 III					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
7	画 像 に 表 れ た 表 象					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
8	制 度 化 さ れ た 異 文 化 交 流					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
9	「 怠 け 者 民 族 」 の 神 話					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
10	「 怠 け 者 民 族 」 の 神 話 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
11	文 化 分 配 論					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
12	文 化 分 配 論 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
13	文 化 分 配 論 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	「 生 活 形 態 」 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	試 験 あ る い は レ ポー ト					事 前 : ノー ト の 見 直 し 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 で 教 わ る こ と か ら 自 分 な り の 視 点 を 見 つ け る よ う に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 心 理 学 (Cultural Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 自己表現のスタイルに「アサーティブ」というものがある。言語が多様であるように文化により自己表現も一律ではない。本講義は、心理学の視点からアサーティブな自己表現を学ぶ。									
授 業 目 標 : ① 相手を立てつつ自己表現することの意義を学ぶ。 ② 文化が人間の心に及ぼす要因を実証的研究から分析し理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	アサーティブネスとは					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	アサーティブネスの査定について					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
3	自己成長を記録する					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
4	自己表現の権利とは何か					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
5	アサーティブな生き方とは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
6	アサーティブネスの事例					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
7	アサーション・トレーニングの目標設定					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
8	アサーション・トレーニングのスキル					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
9	21世紀のアサーティブ・メッセージ					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
10	アサーティブに考えるとは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
11	恐怖感情への対処法					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
12	トレーニング・プログラムについて					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
13	プログラムの進め方					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
14	アサーティブネスが平等な人間関係を築く意味					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 : 『増補改訂 セルフ・アサーション・トレーニング』、 菅沼憲治著、東京図書					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化人類学A (Cultural Anthropology A)						科目分類	専門科目	
担当教員	川添 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom利用。							
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、人種概念、言語、性、親族、ジェンダー、通過儀礼、宗教、医療、移動と共生、フィールドワークについて学ぶ。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. 文化の普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習(学習課題)	授業形態		
1・2	I章「人類と文化」：人類の起源と進化、直立二足歩行、文化の普遍性と特殊性、文化の相対性について学ぶ。					事前：高校世界史振り返り 事後：1章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
3	IX章「人種について」：ヒトの多様性、「人種」概念の社会構築性、現代の人種差別について学ぶ。					事前：人種差別記事読解 事後：9章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
4	III章「人類と言語」：人間の言語の特性、言語相対論、言語と文化の再生と保持について学ぶ。					事前：外国語習得振り返り 事後：3章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
5・6	VI章「性と婚姻」、VII章「家族と親族」、VIII章「ジェンダーとセクシュアリティ」：生殖と性、社会的コントロール、人工生殖、同性婚、家族の多様性、親族名称体系、性差の認識、第三の性について学ぶ。					事前：LGBTs記事読解 事後：6～8章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
7	映像授業：映像製作の社会文化的背景、製作者の意図、社会の評価について学ぶ。					事前：関連項目検索 事後：映像資料復習	視聴60分、ディスカッション20分、記述10分		
8	XIV章「人間の一生」：文化が作る分類と認識、生物学的時間と社会的時間、通過儀礼、境界、タブー、リミナリティについて学ぶ。					事前：成人式考察 事後：14章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
9	XIII章「宗教と世界観」：祖先祭祀、アニミズム、祭り、妖術信仰、シャーマニズム、宗教の展開について学ぶ。					事前：結婚式イメージ 事後：13章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
10	XV章「医療と文化」：癒し、環境と人間の関係、医療の近代化、人相学・骨相学、優生学、社会的苦悩について学ぶ。					事前：コロナ下生活振り返り 事後：15章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
11	文化の普遍性と特殊性、文化相対主義と自文化中心主義、文化相対主義の限界について学ぶ。					事前：ノート整理 事後：1・20章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
12	XVI章「人類の移動と共生」：人の移動の歴史、移住のタイプ、移動者のタイプ、国民国家、国籍・市民権・アイデンティティ・パスポート、グローバル化について学ぶ。					事前：外国に暮らすこと 事後：16章の復習	講義60分、質疑応答20分、小テスト10分		
13	XX章「フィールドワーク」：フィールドワークの特徴とその過程について学ぶ。					事前：市場調査イメージ 事後：20章の復習	講義60分、ディスカッション20分、記述10分		
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。					事前：テスト準備 事後：振り返り	講義30分、テスト60分		
教本： 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』第2版、ミネルヴァ書房、¥2,500+税					参考文献： そのつど紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 人 類 学 B (Cultural Anthropology B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 地 理 、 世 界 史 の 知 識 。 Google Classroom 利 用 。							
授 業 概 要 :									
人 類 の 誕 生 と 進 化 の 歴 史 を お さ え た 上 で 、 生 業 、 経 済 、 観 光 、 民 族 、 法 律 、 政 治 、 民 族 誌 に つ い て 学 ぶ 。 毎 回 の 授 業 終 了 前 に 小 テ ス ト を 行 い 、 理 解 度 に つ い て 確 認 し 、 次 の 回 の 授 業 冒 頭 で 補 足 説 明 を 行 っ 。									
授 業 目 標 :									
1. 文 化 の 普 遍 性 と 多 様 性 を 理 解 す る 。 2. 文 化 相 対 主 義 、 自 文 化 中 心 主 義 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	I 章 「人 類 と 文 化」: 人 類 の 起 源 と 進 化 、 直 立 二 足 歩 行 、 文 化 の 普 遍 性 と 特 殊 性 、 文 化 の 相 対 性 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : 高 校 世 界 史 振 返 り 事 後 : 1 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
3	IV 章 「生 業」: 生 業 と は 、 生 業 の 展 開 、 狩 猟 採 集 、 現 代 の 狩 猟 活 動 、 狩 猟 採 集 の 意 義 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : 狩 猟 採 集 の イ メ ー ジ 事 後 : 4 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
4	IV 章 「生 業」: 牧 畜 と 畜 産 、 牧 畜 の 技 術 、 牧 畜 の 拡 大 、 農 耕 、 農 耕 に よ る 社 会 変 化 、 農 耕 の 未 来 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : 牧 畜 と 農 業 イ メ ー ジ 事 後 : 4 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
5・6	V 章 「文 化 と 経 済」: 贈 り 物 と 経 済 、 ク ラ 交 換 、 贈 与 論 、 経 済 の 形 式 的 意 味 と 実 質 的 意 味 、 貨 幣 、 ポ リ テ イ カ ル エ コ ノ ミ ー と 世 界 シ ス テ ム に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : 贈 り 物 経 験 振 返 り 事 後 : 5 章 の 復 習		視 聴 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
7	XVIII 章 「観 光 と 文 化」: 旅 から 観 光 へ 、 観 光 の ま な ざ し 、 観 光 客 の 本 物 志 向 、 文 化 観 光 、 文 化 遺 産 と ノ ス タ ル ジ ア 、 都 市 化 と グ リ ー ン ツ ー リ ズ ム に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : 旅 行 経 験 振 返 り 事 後 : 18 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
8	映 像 授 業					事 前 : 関 連 項 目 検 索 事 後 : 映 像 資 料 復 習		視 聴 60 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 、 記 述 10 分	
9	X 章 「民 族 と エ ス ニ シ テ イ」: 「民 族」 「部 族」 概 念 の 批 判 的 検 討 、 国 民 国 家 、 先 住 民 族 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : ク リ ス マ ス イ メ ー ジ 事 後 : 13 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
10	XI 章 「法 律 ・ 秩 序 ・ 社 会 統 制」: 身 体 作 法 、 ル ー ル (慣 習 ・ 規 範 ・ 法) 、 社 会 化 、 紛 争 処 理 、 先 住 民 と 法 、 宗 教 と 法 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : ジ ェ ス チ ャ ー 意 識 化 事 後 : 11 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
11	XII 章 「政 治 と 権 力」: 帝 国 主 義 、 植 民 地 主 義 、 20 ~ 21 世 紀 の 戦 争 、 現 代 の 紛 争 、 人 権 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : 紛 争 ニ ュ ー ス 振 返 り 事 後 : 12 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
12	XIX 章 「文 化 人 類 学 と 民 族 誌」: 民 族 誌 / エ ス ノ グ ラ フ ィ ー 、 オ リ エ ン タ リ ズ ム 批 判 、 ネ イ テ イ ヴ の 人 類 学 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : ク ラ 交 換 振 返 り 事 後 : 19 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
13	文 化 の 普 遍 性 と 特 殊 性 、 文 化 相 対 主 義 と 自 文 化 中 心 主 義 、 文 化 相 対 主 義 の 限 界 に つ い て 学 ぶ 。					事 前 : ノ ー ト 整 理 事 後 : 1・20 章 の 復 習		講 義 60 分 、 質 疑 応 答 20 分 、 小 テ ス ト 10 分	
14・15	授 業 全 体 を 振 り 返 る 。 最 終 テ ス ト を 受 け る 。					事 前 : テ ス ト 準 備 事 後 : 振 り 返 り		講 義 30 分 、 テ ス ト 60 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
綾 部 恒 雄 ・ 桑 山 敬 己 編 『よ く わ か る 文 化 人 類 学』 第 2 版 、 ミ ネ ル ヴ ァ 書 房 、 ¥2,500 + 税					そ の つ ど 紹 介 し ま す 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、 最 終 テ ス ト (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
各 種 情 報 や 様 々 な 現 象 を 批 判 的 に 読 み 解 く 力 を つ け 、 自 ら の 思 考 を 展 開 で き る ト レ ー ニ ン グ を し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文学と観光 (Literature and Tourism)						科目分類	専門科目	
担当教員	古賀 学								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 紀行文、純文学、俳句などを通して文学と観光の構造を理解し、文学を生かした空間整備、観光ルートの設定、旅行商品化、地域ブランド化などについて学修する。観光を学ぶ上で是非読むべき文学作品についても学修する。本講座では講義の意味での文学を扱うものとする。									
授業目標： 1. 文学を通してテーマ別観光の構造を理解する。 2. 観光振興における文学の活かし方、観光地づくりの手法を学修する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文学と観光 ・文学とは ・文学の旅の実像と虚像					事前：文学を好きになる。 事後：観光と旅の構造について復習し理解を深める。		講義	
2・3	観光対象としての文学系 ・文学と観光地 ・文学碑など文学遺産と観光（舞台、執筆処、生家など） ・コンテンツ・ツーリズムと文学の旅					事前：「伊豆の踊子」を熟読する。 事後：文学の映像化と観光について復習する。		講義	
4・5	松尾芭蕉「奥の細道」と観光地 ・俳句と季語と観光資源 ・奥の細道と観光地・観光コースとしての現状					事前：俳句を理解する。 事後：「奥の細道」と現代の観光との関係を復習する。		講義及び発表	
6・7	十返舎一九「東海道中膝栗毛」とお伊勢参り ・東海道の形成と移動 ・東海道中膝栗毛と十返舎一九 ・東海道中膝栗毛の行程と宿場と街道筋					事前：「東海道中膝栗毛」を熟読。 事後：江戸時代の旅について理解を深める。		講義	
8・9	イザベラ・バード「日本奥地紀行」と旅の現状 外国人の目から見た日本の旅の昔を考察する。 ・外国人の体感した日本 ・会津、阿賀野川の旅と観光地					事前：「日本奥地紀行」を熟読。 事後：明治時代の旅の様子について理解を深める。		講義	
10・11	三島由紀夫「潮騒」と神島 ・三島由紀夫という小説家 ・潮騒の舞台である神島と観光					事前：「潮騒」を熟読。 事後：島と文学について再考する。		講義	
12	川端康成「伊豆の踊子」と大島波浮港 ・川端康成という小説家 ・伊豆大島波浮港と執筆宿					事前：「伊豆の踊子」を熟読。 事後：伊豆の踊子と伊豆半島との関係を調べる。		講義	
13	漫画とアニメと観光 ・聖地巡礼 ・アニメの舞台と観光地					事前：アニメの聖地の把握。 事後：アニメと観光について再考する。		講義及び発表	
14	神奈川県と文学観光 ・神奈川県の文学館 ・神奈川県における文学と観光地					事前：神奈川観光の把握。 事後：神奈川観光における文学の魅力を再考する。		講義	
15	文学と観光の体系を踏まえ今後の観光活用について考察する。					事前：総復習を行う。 事後：本を読むことを習慣とする。		講義	
教本： 資料を配布。					参考文献： 各回で必要に応じて指示				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本を読むこと									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本は出講日いつでも可。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	文章作法 (Writing Manners)						科目分類	専門科目	
担当教員	澤田 帆奈美								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現代では不可欠なコミュニケーション手段となっている電子メールと、依然としてコミュニケーション上、重要な役割を担っている伝統的な手紙を分析・比較する。さらに、ビジネス文書の書き方を学ぶ。それぞれの文章について、「慣習的に定められた書式」、「相手にふさわしい表現（敬語の使い方）」「簡明さ」という3点に留意し、状況や目的に合った書き方を検討・実践する。									
授業目標： 1. 実用文としての機能をもつ手紙、電子メール、ビジネス文書について、それぞれの文章構造、機能、語彙・表現について学び、その文書を読む対象へ配慮し、対象に応じて、適切に書くことができるようになる。 2. 秘書検定、日本語検定（敬語）に関して、日本語に関する問題を正しく答えられるような知識を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 手紙の書き方1 手紙文の形式・マナー 頭語と結語					事前：シラバスを読んでくる 事後：資料の復習		講義(40分) 演習(50分)	
2	手紙の書き方2 時候のあいさつ 手紙のことば（日本語検定から）					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義(40分) 演習(50分)	
3	手紙の書き方3 手紙に使える季節のことば 近況報告の手紙を書く					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 演習(50分)	
4	手紙の書き方4 手紙のことば（日本語検定から） 手紙のレイアウト					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義(40分) 演習(50分)	
5	手紙の書き方5 尊称・謙称 忌み言葉 お礼の手紙を書く					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 演習(50分)	
6	メールの書き方1 手紙・メールの比較 メール形式・マナー					事前：事前配付資料の読み 事後：比較分析結果の整理		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
7	メールの書き方2 間違いだらけのメール 分析 正しく書き直す					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
8	メールの書き方3 ささまざまなシチュエーションでのメール文					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
9	メールの書き方4 誘いのメール 分析 正しく書きなおす					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
10	メールの書き方5 お願いのメール 分析 正しく書きなおす					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
11	秘書検定について 概要の説明 問われる問題について解説 ビジネス文書（概説） ビジネス文書とは					事前：事前配付資料の読み 事後：分析結果の整理		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
12	ビジネス文書（概説・実践） 間違いだらけのビジネス文書 分析 ビジネス文書（実践篇①） ビジネス文書を作成する					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 意見出し・演習(50分)	
13	ビジネス文書（実践篇②） ビジネス文書を作成する No.1					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義(40分) 演習(50分)	
14	ビジネス文書（実践篇②） ビジネス文書を作成する No.2					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義(40分) 演習(50分)	
15	全体のまとめ（手紙・メールのマナー・ビジネス文書について）					事前：質問・確認事項洗い出し 事後：全体のまとめ		講義(40分) 演習(50分)	
教本： プリントを配布する。 『ステップアップ日本語講座』敬語のページ 東京書籍 『らくらく合格秘書検定2・3級』翔泳社					参考文献： 松浦照子著『実践日本語表現』ナカニシヤ出版 長尾佳代子他著『大学生のための日本語技法』ナカニシヤ出版 野田尚史他著『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房 『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版社				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況、分析結果の発表等（50%）、実作の手紙・メール（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 手紙、ビジネスメール、ビジネス文書の書き方を学びます。秘書検定について説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 課 程 論 (Early Childhood Education Courses) (保 育)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 保 育 の 計 画 の 意 義 と 必 要 性 、 保 育 の 計 画 の 歴 史 を 理 解 し 、 実 際 の 教 育 課 程 、 保 育 課 程 、 指 導 計 画 を 例 に 取 っ た 分 析 や 評 価 ・ 改 善 に つ い て 学 ぶ 。 ま た 、 保 育 の 計 画 の 基 準 と なる 「 幼 稚 園 教 育 要 領 」 、 「 保 育 所 保 育 指 針 」 、 「 幼 保 連 携 型 認 定 こ と も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 」 の 基 本 を 理 解 す る 。 保 育 制 度 が 急 激 に 変 化 し て いる 中 、 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程 を 知 る こ と で 、 新 し い 保 育 を 考 え 、 組 み 立 て る 力 を 養 う と と も に 、 保 育 の 計 画 全 体 を 把 握 す る こ と で 、 保 育 の 基 本 を 見 直 す 機 会 と す る 。									
授 業 目 標 : 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程 の 意 味 、 果 た す 役 割 を と ら え 、 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程 の 編 成 の 重 要 性 を 理 解 す る と と も に 、 子 ど も た ち の 姿 や 地 域 の 実 情 等 を 踏 ま え た 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程 の 編 成 の 在 り 方 、 評 価 ・ 改 善 し て い く た め の カ リ キ ュ ラ ム ・ マ ネ ジ メ ン ト に つ い て 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (授 業 の 進 め 方 と 評 価 に つ い て) カ リ キ ュ ラ ム の 意 味 と 保 育 計 画					事 前 : 特 に な し 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
2	幼 稚 園 教 育 要 領 、 保 育 所 保 育 指 針 の 理 解 : カ リ キ ュ ラ ム ・ マ ネ ジ メ ン ト と は					事 前 : 指 針 、 要 領 の 講 読 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
3	幼 稚 園 ・ 保 育 所 の 歴 史 と カ リ キ ュ ラ ム (明 治 期 ・ 大 正 期 ・ 昭 和 期 ・ 平 成 期)					事 前 : 歴 史 ・ 思 想 の 確 認 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
4	認 定 こ と も 園 の 歴 史 ・ 法 律 ・ カ リ キ ュ ラ ム (創 設 の 背 景 と そ の 役 割)					事 前 : 歴 史 ・ 思 想 の 確 認 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
5	幼 稚 園 教 育 要 領 ・ 保 育 所 保 育 指 針 の 歴 史 的 展 開					事 前 : テ キ ス ト を 読 む 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
6	絵 本 を 用 い た 保 育 実 践 と 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程					事 前 : 指 針 、 要 領 の 講 読 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
7	乳 幼 児 期 の 子 ど も の 発 達 と 保 育 の 計 画					事 前 : 子 ど も の 発 達 の 理 解 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
8	指 導 計 画 作 成 に 当 た っ て の 基 本 的 な 考 え 方					事 前 : 指 導 計 画 の 理 解 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
9	指 導 計 画 作 成 の 実 際					事 前 : テ キ ス ト を 読 む 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
10	幼 稚 園 ・ 保 育 所 に お け る 指 導 計 画 の 基 本 的 な 考 え 方 と 留 意 点					事 前 : テ キ ス ト を 読 む 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
11	生 涯 学 び 続 け る 力 の 育 成 と 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程					事 前 : テ キ ス ト を 読 む 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
12	地 域 社 会 を 生 か し た 保 育 実 践 と 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程					事 前 : 地 域 に つ い て 知 る 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 活 動 30 分	
13	命 を 大 切 に す る 心 を 培 う 保 育 実 践 と 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程					事 前 : 道 徳 に つ い て 知 る 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
14	自 然 環 境 を 生 か し た 保 育 実 践 と 教 育 課 程 ・ 保 育 課 程					事 前 : 環 境 に つ い て 調 べ る 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
15	教 育 課 程 ・ 保 育 課 程 の 評 価 と 今 後 の 展 望					事 前 : 考 え を ま と め る 事 後 : 特 に な し		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
教 本 : 文 部 科 学 省 『 幼 稚 園 教 育 要 領 解 説 』 フ レ ー ベ ル 館 (2017 年 告 示) 内 閣 府 ・ 文 部 科 学 省 ・ 厚 生 労 働 省 『 幼 保 連 携 型 認 定 こ と も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 』 フ レ ー ベ ル 館 (2017 年 告 示) 厚 生 労 働 省 『 保 育 所 保 育 指 針 』 フ レ ー ベ ル 館 (2017 年 告 示) 谷 田 貝 公 昭 ・ 石 橋 哲 成 監 修 『 コ ン パ ク ト 版 保 育 者 養 成 シ リ ー ズ 教 育 ・ 保 育 課 程 論 』 一 藝 社 (2018 年)					参 考 文 献 : 文 部 科 学 省 『 指 導 計 画 の 作 成 と 保 育 の 展 開 』 フ レ ー ベ ル 館 (2013 年)				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (10 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20 %) 、 定 期 試 験 (70 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 「 保 育 所 保 育 指 針 」 や 「 幼 稚 園 教 育 要 領 」 に は 目 を 通 し て お い て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 原 理 (Principles of Early Childhood Education)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 保 育 ・ 幼 児 教 育 の 基 礎 を そ の 知 見 に 則 り、 広 範 囲 に 学 ば せ る。 保 育 の 理 念、 保 育 の 意 義 と 保 育 の 必 要 性 に つ い て 把 握 さ せ る。 さ ら に、 保 育 の 場、 歴 史 と 現 状、 保 育 の 目 的 ・ 内 容 ・ 方 法 の 関 連、 保 育 の 計 画 と 評 価 の 仕 方、 健 康 ・ 安 全、 多 様 な 保 育 ニーズ へ の 対 応 の 仕 方、 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携、 近 年 の 保 育 動 向 ・ 課 題 な ど、 保 育 者 と し て 必 須 の 基 本 的 知 識 を 習 得 さ せ る。 特 に、 現 在 の 保 育 が ど の よ う な 歴 史 的、 社 会 的 背 景 に よ っ て 成 立 し て い る の か を 考 え さ せ、 保 育 の 社 会 的 役 割 に つ い て 理 解 さ せ る。 授 業 形 態 は、 講 義 の 他 に、 グ ルー プ 討 論 と 発 表、 VTR 視 聴 と そ の 検 討 を 含 む。									
授 業 目 標 : 保 育 の 意 義 ・ 理 念 に つ い て 理 解 し、 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領、 幼 稚 園 教 育 要 領 ・ 保 育 所 保 育 指 針 に お け る 教 育 ・ 保 育 の 基 本 を 把 握 す る。 保 育 の 内 容 と 方 法 の 基 礎 を 理 解 す る。 保 育 の 思 想 と 歴 史 的 変 遷 に つ い て 理 解 す る。 保 育 の 現 状 と 課 題 に つ い て 認 識 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保 育 の 概 念 と 理 念					事 前 : 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
2	教 育 と 福 祉 の 関 連					事 前 : 福 祉 と は 何 か を 考 え て お く 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
3	保 育 の 意 義 ・ 社 会 的 役 割					事 前 : 保 育 の 意 味 を 考 え る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		グ ルー プ 討 論 60 分、 発 表 30 分	
4	諸 外 国 の 保 育 の 思 想 と 歴 史					事 前 : 世 界 史 を 復 習 す る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
5	我 が 国 の 保 育 の 思 想 と 歴 史					事 前 : 日 本 史 を 復 習 す る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
6	幼 稚 園 教 育 要 領 ・ 保 育 所 保 育 指 針 が 示 唆 す る も の					事 前 : テ キ ス ト を 読 ん で お く 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 60 分、 グ ルー プ 討 論 30 分	
7	遺 伝 と 環 境					事 前 : 遺 伝 を 考 え る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
8	乳 幼 児 と 家 庭					事 前 : 家 庭 の 子 育 て を 考 え る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
9	幼 稚 園 ・ 保 育 所 ・ 認 定 こ ど も 園 の 概 要					事 前 : 施 設 の 種 類 を 調 べ る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
10	子 ど も の 発 達 段 階 と 子 ど も 理 解					事 前 : 成 長 ・ 発 達 の 情 報 を 得 る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
11	保 育 制 度 と 保 育 行 政					事 前 : 待 機 児 童 の 記 事 を 探 す 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
12	保 育 の 内 容					事 前 : 望 ま し い 経 験 を 考 え る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 60 分、 グ ルー プ 討 論 30 分	
13	保 育 の 方 法 - 遊 び と 生 活 の 原 理					事 前 : 遊 び の 特 徴 を 考 え る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 60 分、 グ ルー プ 討 論 30 分	
14	保 育 者 の 使 命 と 資 質 - 保 育 者 の 専 門 性					事 前 : 保 育 者 の 役 割 を 考 え る 事 後 : ノー ト を 読 み 返 す		講 義 60 分、 グ ルー プ 討 論 30 分	
15	様 々 な 保 育 実 践 と 現 代 の 保 育 課 題					事 前 : 時 事 問 題 の 記 事 を 読 む 事 後 :		講 義 90 分	
教 本 : 『幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領、 幼 稚 園 教 育 要 領、 保 育 所 保 育 指 針』 (最 新 版) 石 橋 哲 成 編 著 『コ ン パ ク ト 版 保 育 原 理』 一 藝 社					参 考 文 献 : 適 宜、 授 業 時 に 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 保 育 者 と し て 必 須 の 保 育 ・ 福 祉 に 関 わ る 基 礎 的 事 項 が 理 解 で き、 保 育 的 な も の の 見 方 ・ 考 え 方 が で き て い る か ど う か を、 複 数 回 の レ ポー ト 提 出、 筆 記 試 験 に よ っ て 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 保 育 の 時 事 問 題 に い つ も 関 心 を 持 つ こ と。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	保育実習 I (施設) (Internship at a Facility I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和・古金悦子								
履 修 条 件	前提科目	保育実習指導 I (保育所・施設)							
	そ の 他	保育実習履修資格を満たしていること							
<p>授業概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設等での体験を通して、施設の役割や機能、保育の職務（子どもたちや利用者との関わり、他の職員との連携）等を理解する。 施設等で生活している子どもや利用者の活動を観察し、一人ひとりの子どもや利用者に合わせて保育士の支援方法について学ぶ。 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 施設等での生活実態に触れ、子どもや利用者での家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、支援するために必要とされる能力を養う。 									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童福祉施設や社会福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 観察や子ども・利用者とのかか関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育・利用者の生活等及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 保育や生活の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1～15	<p>〈児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 施設における子どもや利用者の生活と保育士の援助や関わり 施設の役割と機能 子どもや利用者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 子どもや利用者の観察とその記録 個々の状態に応じた援助や関わり 施設における子どもや利用者の生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> 計画に基づく活動や援助 子どもや利用者の心身の状態に応じた生活と対応 子どもや利用者の活動と環境 健康管理、安全対策と理解 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> 支援計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 保育士の業務内容 職員間の役割分担や連携 保育士の役割と職業倫理 <p>まとめ</p>					<p>事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：実習記録の整理と 実習日誌の記入</p>		<p>児童福祉施設等 (保育所)以外での実習 (90時間以上)</p>	
<p>教本：講義内で指定資料配布する。</p>					<p>参考文献：保育実習（保育所・施設）記録：書き方をマスターするために 保育者養成研究会編 保育出版社</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>各実習施設に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 I (保 育 所) (Internship at a Preschool I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	保 育 実 習 履 修 資 格 を 満 た し て い る こ と							
授 業 概 要 :									
<p>1. 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携）等を理解する。</p> <p>2. 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。</p> <p>3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。</p> <p>4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。</p> <p>5. 家族と保育所の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。</p> <p>2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。</p> <p>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</p> <p>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1 ~ 15	<p>保育所の生活と一日の流れ 保育所保育指針の理解と保育の展開 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解 子どもへの援助やかかわり</p> <p>保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全</p> <p>保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察、自己評価</p> <p>専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理</p> <p>まとめ</p>					事前：実習準備 事後：記録・反省		実習 (90時間以上)	
教 本 :			参 考 文 献 :						
講義内で指定資料配布する。			保育実習（保育所・施設）記録：書き方をマスターするために 保育者養成研究会編 保育出版社						
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 II (保 育 所 ・ 施 設) (Internship at a Preschool or Facility II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 I ・ 保 育 実 習 指 導 II							
	そ の 他	保 育 実 習 I を 履 修 済 み で あ る こ と 。							
授 業 概 要 :									
<p>1. 保育実習 I で学んだ基本的内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援、利用者への理解及び生活について総合的に学び、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。</p> <p>2. 保育所実習においては、部分実習や責任実習を通して、子どもとのかかわり方や保育技術及び実践力を身に付ける。施設実習においては、利用者の年齢や発達段階、症状や特性に応じた関わり方や養護技術、介助技術の実践力を身に付ける。</p> <p>3. 保育士と共に保育所または施設における業務などを経験しながら、臨機応変な対応や判断力を身に付ける。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 保育所や施設の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p>2. 子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることで、理解を深める。</p> <p>3. 既習の教科目や保育実習 I の経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、利用者への理解及び生活について総合的に理解する。</p> <p>4. 保育所や施設での生活の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。</p> <p>5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>6. 実習における自己の課題を明確化する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1 ~ 15	<p>《保育所実習》</p> <p>保育実習 I の体験を基に、乳児、幼児と積極的に関わり、指導の実地経験を積む。学校で学んだ理論や技術を実際の現場での指導体験と結びつけ、自らの保育観、目標を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参加実習・責任実習を行なう。 <ul style="list-style-type: none"> (1)保育所での保育を実際に体験し、保育士としての指導力、技術を身に付ける。 (2)保育士の立場に立って指導計画を立案し、その指導を体験する。 (3)乳児、幼児の安全、衛生面に対する配慮と措置について修得する。 (4)一人一人の乳幼児についての理解を深め、適切な指導と対応を体験する。 (5)保育士としての責任感、使命感を学び、子ども達のための環境作りを考える。 ○保育所の役割や機能について理解を深める。 ○観察に基づく保育を理解する。 ○子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携を理解する。 ○保育計画の作成・実践・観察・記録・評価を体験し、理解する。 ○保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。 ○自己課題を明確化する。 <p>《施設実習》</p> <p>保育実習 I の体験を基に、利用者の実践活動の状況を見学、観察、参加することにより、それぞれの施設の意義、保育士の職務内容や人的、物的環境が実際の生活の中でどのように活かされているかを理解し学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題の明確化。 ○実習施設の目的や機能について理解する。 ○実習施設の一日の流れについて理解し、参加する。 ○利用者の観察や、関わりを通して理解を深める。 ○支援計画について学ぶ。 ○利用者と生活を共にすることにより、養護技術、介助技術を習得する。 ○職員間の役割分担と、チームワークの在り方について学ぶ。 ○施設の行事や地域における活動、交流などを通して、施設と家庭・地域社会との関係について理解する。 ○指導計画の作成、実践、自己評価、反省をする。 ○利用者の最善の利益、権利擁護についての配慮を学ぶ。 ○保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。 ○安全及び疾病予防への配慮について理解する。 					<p>事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備</p> <p>事後：保育記録の整理と実習日誌の記入</p>		保育所または施設での実習 (90 時間以上)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講義内で指定資料配布する。					保育実習 (保育所・施設) 記録：書き方をマスターするために 保育者養成研究会編 保育出版社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
実習先の評価 (50%)、日誌・記録等 (30%)、その他 (20%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 指 導 I (保 育 所) (Guidance on Internship at Preschool I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	保 育 実 習 履 修 資 格 を 満 た し て い る こ と							
授 業 概 要 :									
保 育 所 実 習 の 準 備 を 行 う 。 保 育 所 実 習 と 並 行 し て 行 わ れ る 授 業 で 、 実 習 の 目 的 、 保 育 所 の 機 能 、 保 育 士 の 職 務 内 容 や 実 習 手 続 き の 書 類 の 作 成 に つ い て 学 習 す る 。 ま た 、 保 育 所 保 育 指 針 の 内 容 を 理 解 し 、 実 習 生 と し て 保 育 所 生 活 に 参 加 す る こ と を イ メ ー ジ す る 。 子 ど も を 理 解 し 、 援 助 の 仕 方 に 関 す る 理 解 を 深 め 、 観 察 、 参 加 、 責 任 実 習 の 段 階 に お け る 実 習 内 容 、 実 習 記 録 、 指 導 計 画 に つ い て 学 習 す る こ と を 目 的 と す る 。									
授 業 目 標 :									
① 保 育 所 実 習 の 事 前 準 備 と し て の 心 構 え を し っ か り 理 解 し 、 態 度 や 意 欲 を 持 つ よ う に す る 。 ② 積 極 的 に 授 業 に 参 加 を し 、 実 習 の 課 題 を 明 確 に で き る 。 ③ 保 育 者 と し て の 能 力 、 資 質 を 身 に 付 け る こ と が ど う い う こ と か 理 解 し 、 実 習 で 生 か せ る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保 育 所 実 習 の 意 義 、 目 的 、 心 得 を 知 る 。 施 設 実 習 に つ い て の 説 明 を す る					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後 : 指 定 資 料 を 確 認 し 、 記 入 す る		講 義 70 分 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
2	保 育 所 実 習 の 目 的 を 理 解 す る 。 施 設 実 習 の 実 習 先 を 探 し 、 申 し 込 み を す る					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 指 定 資 料 を 作 成 す る		講 義 60 分 個 別 30 分	
3	実 習 の て び き に そ っ て 実 習 前 に 準 備 す る こ と 。 提 出 書 類 に つ い て 等 説 明 す る					事 前 : 作 成 資 料 の 確 認 を す る 事 後 : 実 習 の て び き を 読 む		講 義	
4	保 育 実 習 報 告 会 に 参 加 し 、 先 輩 の 話 か ら 学 ぶ					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 課 題 レ ポ ー ト を 作 成 す る		発 表 会	
5	実 習 先 提 出 書 類 作 成 指 導 を 行 う 。 実 習 課 題 を 明 確 に す る					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 実 習 課 題 を ま と め る		講 義 30 分 資 料 作 成 60 分	
6	持 ち 物 、 身 だ し な み に つ い て 、 実 習 の て び き を も と に 話 し 合 う					事 前 : 実 習 の て び き を 読 む 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		講 義 30 分 グ ル ー プ ワ ー ク 60 分	
7	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン に つ い て 説 明 す る					事 前 : 実 習 日 誌 を 見 て お く 事 後 : 実 習 園 に つ い て 調 べ る		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
8	保 育 所 の 一 日 と 流 れ 、 実 習 日 誌 の 書 き 方 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習 を す る		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
9	指 導 計 画 の 作 成 に つ い て 学 ぶ 。 「 手 遊 び 」 の 指 導 案 を 作 成 す る					事 前 : 教 材 を 探 す 事 後 : 指 導 案 を 清 書 す る		講 義 30 分 個 別 60 分	
10	模 擬 保 育 を 実 施 す る					事 前 : 模 擬 保 育 の 準 備 事 後 : 記 録 を ま と め る		模 擬 保 育	
11	指 導 計 画 の 作 成 に つ い て 、 全 員 の 模 擬 保 育 を 振 り 返 り 、 修 正 指 導 案 を 作 成 す る					事 前 : 記 録 を 読 み 返 す 事 後 : 指 導 案 を 清 書 す る		講 義 20 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分 発 表 20 分	
12	絵 本 読 み 聞 か せ 指 導 計 画 の 作 成 を す る 。 導 入 ・ 展 開 ・ ま と め ま で の 形 で 計 画 し て い く					事 前 : 教 材 研 究 す る 事 後 : 指 導 案 を 清 書 す る		講 義 20 分 個 別 70 分	
13	模 擬 保 育 の 実 施 ① (1 人 10 分 と し て 、 実 施 し 、 評 価 ・ 反 省 を 行 う)					事 前 : 模 擬 保 育 の 準 備 事 後 : 記 録 を ま と め る		模 擬 保 育	
14	模 擬 保 育 の 実 施 ② (1 人 10 分 と し て 、 実 施 し 、 評 価 ・ 反 省 を 行 う)					事 前 : 模 擬 保 育 の 準 備 事 後 : 記 録 を ま と め る		模 擬 保 育	
15	模 擬 保 育 の 評 価 と 反 省 を す る 。 修 正 指 導 案 を 作 成 し 、 提 出 す る					事 前 : 指 導 案 を 見 直 す 事 後 : 巡 回 指 導 教 員 へ 挨拶 に 行 く		講 義 30 分 グ ル ー プ ワ ー ク 60 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る 。					幼 稚 園 ・ 保 育 所 実 習 ハ ン ド ブ ッ ク 田 中 ま さ 子 編 (株) み ら い				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (30%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) 、 そ の 他 (20%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
各 実 習 園 に 対 す る 注 意 事 項 の 説 明 、 提 出 書 類 の 作 成 等 を 行 う の で 、 原 則 と し て 遅 刻 欠 席 は 認 め な い 。 ま た 実 習 先 へ の 提 出 書 類 の 遅 延 、 授 業 態 度 の 怠 惰 等 で 実 習 の 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 を す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	保育実習指導Ⅰ(施設)(Guidance on Internship at Preschool I)						科目分類	専門科目	
担当教員	小野 和・古金悦子								
履修条件	前提科目	保育所実習指導Ⅰ(保育所)が終了していること							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>施設実習の準備を行う。施設実習と並行して行われる授業で、実習の目的、施設養護における保育士の在り方や施設の機能、保育士の職務内容や実習手続きの書類の作成について学習する。また、保育所保育指針の内容を理解し、実習生として施設生活に参加することをイメージする。子どもや利用者を理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。</p> <p>授業目標：</p> <p>①施設実習の事前準備としての心構えをしっかりと理解し、態度や意欲を持つようにする。②積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確にできる。③保育者としての能力、資質を身に付けることがどういうことか理解し、実習で生かせるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	保育所実習の振り返りと自己課題の明確化 保育所実習における反省をし、自己課題をしっかりと確認する					事前：保育所実習の振り返り 事後：自己課題を確認する		実習評価の反省 60分、 自己課題の確認 30分	
2	施設実習の目的理解 実習先による目的と内容の理解(各実習施設を理解をする)					事前：施設実習の目的理解 事後：実習のまとめをする		講義 90分	
3	実習施設の理解と実習内容・個人票について説明する					事前：実習施設の確認をする 事後：書類の整理をする		講義 60分、意見交換 30分	
4	施設種別ごとの理解をし、実習内容を各自調査する					事前：自分の実習先の確認 事後：調査後の整理をする		講義 30分、調査 60分	
5	DVDを鑑賞する。(乳児園や児童養護施設について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする					事前：施設の種別の確認する 事後：レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分	
6	DVDを鑑賞する。(施設実習の実際について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする					事前：施設の種別の確認する 事後：レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分	
7	実習先提出書類作成指導①自分の実習先に対応するための準備をする (各自の目標や課題、実習にあたっての課題を考える)					事前：実習の具体的内容把握 事後：課題を考える		講義 30分、 調査・課題検討 60分	
8	実習先提出書類作成指導②自分の実習先に対応するため各自の目標や課題、 実習にあたっての課題を書く					事前：実習の具体的内容把握 事後：課題を再確認する		講義 30分、書類作成 60分	
9	実際の作業所に見学に行き、障害者の社会参加について学ぶ					事前：見学の質問を考える 事後：見学のまとめをする		作業所 90分	
10	作業所見学後の意見交換と自己課題の確認をする。レポート提出					事前：意見交換の準備をする 事後：レポート提出		意見交換 30分、自己課題 30分、 レポート 30分	
11	実習日誌の作成指導①…一日の流れを把握する					事前：施設の全体把握をする 事後：一日の流れを再確認		講義 60分、意見交換 30分	
12	実習日誌の作成指導②…一日の課題に対する反省について、書き方を理解する					事前：課題について検討 事後：書き方の見直しをする		講義 60分、意見交換 30分	
13	オリエンテーションについて説明する (具体的に電話の掛け方等実習の手引きを参考に学ぶ)					事前：実習手引きを準備する 事後：電話応答を確認する		講義 60分、意見交換 30分	
14	参加、観察実習の留意点を説明する					事前：実習手引きを準備する 事後：実習の再確認をする		講義 60分、意見交換 30分	
15	実習評価と反省					事前：評価と反省をまとめる 事後：自己評価の確認をする		講義 60分、意見交換 30分	
<p>教本：</p> <p>講義内で指定資料配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編 (株)みらい</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(50%)、その他(20%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また実習先への提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意をすること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 指 導 Ⅱ (保 育 所 ・ 施 設) (Guidance on Internship at Preschool Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 野 和 ・ 古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
① 保 育 実 習 Ⅰ で 学 ぶ 基 本 的 な 内 容 を 踏 ま え 、 保 育 士 と し て 必 要 な 資 質 、 能 力 、 技 術 を 修 得 す る 。 ② 部 分 実 習 や 責 任 実 習 を 通 じ て 、 保 育 技 術 及 び 実 践 力 を 身 に 付 け る 。 施 設 実 習 に お け て は 、 利 用 者 の 年 齢 や 発 達 段 階 、 症 状 や 特 性 に 応 じ た 関 与 方 法 や 養 護 技 術 、 介 助 技 術 の 実 践 力 を 身 に 付 け る 。 ③ 保 育 士 と し て 臨 機 応 変 な 対 応 や 判 断 力 を 身 に 付 け る 。									
授 業 目 標 :									
① 保 育 所 や 施 設 の 役 割 や 機 能 に つ い て 、 具 体 的 な 実 践 を 通 じ て 理 解 を 深 め る 。 ② 子 ども や 利 用 者 の 観 察 や か か わ り の 視 点 を 明 確 に す る こ と で 理 解 を 深 め る 。 ③ 既 習 の 教 科 目 や 保 育 実 習 Ⅰ の 経 験 を 踏 ま え 、 子 ども の 保 育 及 び 子 育 て 支 援 、 利 用 者 へ の 理 解 及 び 生 活 に つ い て 総 合 的 に 理 解 す る 。 ④ 保 育 所 や 施 設 で の 生 活 の 計 画 、 実 践 、 観 察 、 記 録 及 び 自 己 評 価 等 に つ い て 、 実 際 に 取 り 組 み 、 理 解 を 深 め る 。 ⑤ 保 育 士 の 業 務 内 容 や 職 業 倫 理 に つ い て 、 具 体 的 な 実 践 に 結 び 付 け て 理 解 す る 。 ⑥ 実 習 に お け る 自 己 の 課 題 を 明 確 化 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	実 習 Ⅰ の 学 び を 振 り 返 り 、 実 習 Ⅱ の 意 義 、 目 的 、 心 得 等 に つ い て 理 解 す る 。				事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 指 定 資 料 の 確 認 を す る		講 義 30 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分 、 発 表 30 分		
2	実 習 Ⅱ の 目 的 を 理 解 し 、 後 輩 に 向 け て 実 習 報 告 会 を 行 な う 。 そ の 際 の 発 表 原 稿 を 準 備 し て い く 。				事 前 : 実 習 日 誌 を 見 直 す 事 後 : 報 告 会 発 表 原 稿 作 成		講 義 20 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 60 分 発 表 10 分		
3	実 習 報 告 会 に 参 加 し 、 自 身 の 経 験 を 発 表 す る と と も に 他 者 の 発 表 か ら 学 ぶ 。				事 前 : 発 表 に 向 け て 練 習 す る 事 後 : 感 想 文 を 作 成 す る		発 表 会		
4	実 習 の 目 的 と 留 意 点 を 踏 ま え オ リ エ ン テ ー シ ョ ン に つ い て 確 認 し 、 実 習 先 提 出 書 類 の 作 成 を 行 な う 。				事 前 : 実 習 の 手 引 き を 読 む 事 後 : 書 類 を 完 成 さ せ る		講 義 を 中 心 に 各 自 で 書 類 を 作 成 す る 。		
5	保 育 実 習 Ⅰ の 反 省 か ら 各 自 の 実 習 課 題 を 明 確 に し 、 書 類 を 作 成 す る 。				事 前 : 実 習 日 誌 を 見 直 す 事 後 : 実 習 課 題 を 書 く		講 義 30 分 、 資 料 作 成 で の 個 別 指 導 60 分		
6	部 分 実 習 に 向 け て 、 指 導 計 画 を 作 成 す る 。 そ の 際 の 教 材 や 環 境 構 成 に つ い て 検 討 し て い く 。				事 前 : 教 材 研 究 を し て お く 事 後 : 指 導 案 を 作 成 す る		講 義 30 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分 、 個 別 40 分		
7	指 導 計 画 を 作 成 し て い く 中 で 、 保 育 者 の 援 助 や 子 ども の 活 動 に つ い て 見 直 し 、 ね ら い に 沿 っ た 計 画 が 立 て ら れ る よ う に す る 。				事 前 : 指 導 案 の 見 直 し を す る 事 後 : 模 擬 保 育 の 準 備 を す る		講 義 30 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分 、 個 別 40 分		
8	模 擬 保 育 の 実 施 (前 半 。 一 人 あ た り 15 分 と す る た め 2 回 に 分 け て 行 な う)				事 前 : 指 導 案 を 読 ん で お く 事 後 : 反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評		
9	模 擬 保 育 の 実 施 (後 半) 模 擬 保 育 実 施 後 振 り 返 り と 評 価 、 反 省 を す る 。				事 前 : 指 導 案 を 読 ん で お く 事 後 : 反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評		
10	責 任 実 習 に 向 け て 、 指 導 計 画 を 作 成 す る 。 そ の 際 の 教 材 や 環 境 構 成 に つ い て 検 討 し て い く 。				事 前 : 教 材 研 究 を す る 事 後 : 指 導 案 を 書 い て み る		講 義 30 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分 、 個 別 40 分		
11	責 任 実 習 の 中 で 、 保 育 者 の 援 助 や 子 ども の 活 動 に つ い て 指 導 計 画 を 見 直 し 、 ね ら い に 沿 っ た 計 画 が 立 て ら れ る よ う に す る 。				事 前 : 指 導 案 の 見 直 し を す る 事 後 : 指 導 案 の 修 正 を す る		講 義 30 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分 、 個 別 40 分		
12	責 任 実 習 場 面 で の 模 擬 保 育 を 実 施 し 、 振 り 返 り 、 反 省 ・ 評 価 を 行 な う 。 (前 半 。 一 人 15 分 と す る た め 2 回 に 分 け て 実 施)				事 前 : 指 導 案 を 読 ん で お く 事 後 : 反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評		
13	責 任 実 習 場 面 で の 模 擬 保 育 を 実 施 し 、 振 り 返 り 、 反 省 ・ 評 価 を 行 な う 。 (後 半)				事 前 : 指 導 案 を 読 ん で お く 事 後 : 反 省 と 評 価 を 記 入 す る		模 擬 保 育 ・ 講 評		
14	子 ども 及 び 利 用 者 の 最 善 の 利 益 、 権 利 擁 護 に つ い て の 配 慮 を 学 び 、 保 育 士 の 業 務 と 職 業 倫 理 に つ い て の 理 解 を 深 め る 。				事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 を す る 事 後 : 配 付 資 料 を ま と め る		講 義 50 分 、 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分 、 発 表 20 分		
15	実 習 評 価 と 反 省 と し て 事 後 に 行 な う 。				事 前 : 実 習 日 誌 を 見 直 す 事 後 : お 礼 状 を 作 成 す る		講 義 、 各 自 の 報 告 、 意 見 交 換		
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る 。					幼 稚 園 ・ 保 育 所 実 習 ハ ン ド ブ ッ ク 田 中 ま さ 子 編 榎 み ら い				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (50 %) 、 課 題 レ ポ ー ト 等 (50 %) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
学 外 施 設 で の 実 習 に 関 わ る 授 業 で あ る の で 、 原 則 と し て 遅 刻 ・ 欠 席 は 認 め な い 。 ま た 提 出 書 類 の 遅 延 、 授 業 態 度 の 怠 惰 等 で 実 習 の 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 を す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 践 演 習 (Internship for Preschool Guidance)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕 ・ 中 村 淳 子 ・ 小 野 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 実 習 科 目 が 終 了 し て い る も の							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 保 育 者 と し て の 使 命 感 を 持 て る よ う 、 保 育 に 関 わ る 課 題 を 順 次 取 り 上 げ 、 そ れ に 対 す る 分 析 ・ 考 察 ・ 検 討 を 行 い 、 保 育 者 し て の 総 合 的 な も の の 見 方 ・ 考 え 方 を 身 に つ け さ せ る 。 ま た そ れ と と も に 、 子 ど も や 保 護 者 を 援 助 す る 方 法 を 学 習 さ せ る 。 必 修 科 目 と 選 択 必 修 科 目 の 履 修 状 況 や 、 実 習 等 を 通 し て の 学 び を 踏 ま え 、 保 育 者 と し て 必 要 な 知 識 ・ 技 能 を 修 得 し た か を 振 り 返 り 、 確 認 さ せ る 。 授 業 形 式 と し て は 、 グ ル ー プ 討 議 、 ロ ー ル プ レ イ ン グ 、 事 例 研 究 、 現 地 調 査 を 含 む 演 習 を 基 本 と す る 。 必 要 に 応 じ て 、 テ ー チ ン グ ア シ ス タ ン ト を 配 置 す る 。									
授 業 目 標 : 組 織 の 一 員 と し て 、 保 育 に 対 す る 使 命 感 や 情 熱 を 持 ち 、 保 育 者 と し て の 職 責 や 義 務 を 自 覚 し 、 保 護 者 に 対 し て も 良 好 な 関 係 を 築 き 、 子 ど も と 豊 か な 人 間 的 交 流 を 行 え る 資 質 能 力 を 養 う 。 こ の 科 目 は 、 確 固 た る 使 命 感 と 熱 意 を 持 っ て 保 育 を 行 う こ の こ と で き る 人 材 を 育 成 す る 科 目 で あ る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	講 義 概 要 に つ い て 一 履 修 カ ル テ を 元 に 説 明 一 保 育 に 出 る 前 に 身 に 付 け ね ば な ら ない こ と を 学 ぶ					事 前 : シ ラ バ ス を 下 読 み す る 事 後 : 自 分 の 目 標 を 定 め る		講 義 40 分 、 グ ル ー プ 討 議 20 分 、 個 人 目 標 30 分	
2	保 育 ・ 教 育 者 の 使 命 感 ・ 責 任 感 ・ 愛 な ど を グ ル ー プ 討 議 し 、 そ れ ぞ れ の グ ル ー プ で 発 表 し 合 い 、 学 び を 深 め る					事 前 : 配 布 資 料 の 下 読 み 事 後 : グ ル ー プ 討 議 の ま と め		講 義 20 分 、 グ ル ー プ 討 議 20 分 、 発 表 50 分	
3	保 育 者 に 求 め ら れ る も の 一 対 人 関 係 能 力 一 厚 木 市 子 ど も 育 成 課 委 員 と の 意 見 交 換 一 厚 木 市 の 子 育 て 政 策 に つ い て					事 前 : 市 の 子 育 て 政 策 の 下 調 べ 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		講 義 40 分 ・ 意 見 交 換 50 分 、 レ ポ ー ト 提 出	
4	乳 幼 児 に 対 す る 共 感 的 理 解 一 子 ど も の 発 達 課 程 を 踏 ま え 、 乳 幼 児 に 対 す る 共 感 的 理 解 を 総 合 的 に 展 開 さ れ る こ と が 重 要					事 前 : 指 針 等 で 発 達 課 程 の 確 認 事 後 : 自 他 の 意 見 を ま と め る		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
5	生 き る 力 を 育 む 教 育 一 保 育 所 保 育 指 針 を も と に 学 ぶ					事 前 : 指 針 で 事 前 に 調 べ る 事 後 : 自 分 な り の 意 見 を 集 約		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
6	ク ラ ス 運 営 の 手 法 一 一 人 一 人 の 活 動 の 場 面 に 応 じ て 、 そ の 活 動 が 豊 か に な る よ う に ク ラ ス 運 営 を 考 え る					事 前 : 資 料 を 事 前 に 確 認 す る 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		園 長 と の 意 見 交 換 90 分	
7	協 同 す る 経 験 一 友 達 と 関 わ る 中 で 、 互 い の 思 い や 考 え を 共 有 し 、 共 通 の 目 的 的 の 実 現 に 向 け 、 考 え や 工 夫 に よ り 充 実 感 を 得 る					事 前 : 指 針 を 事 前 に 下 読 み す る 事 後 : 指 針 で 再 確 認 す る		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
8	特 別 支 援 教 育 一 特 別 な 配 慮 を 必 要 と す る 乳 幼 児 に 対 し て の 理 解 促 進 や 、 地 域 と の 連 携 を 学 ぶ					事 前 : 指 針 や 要 領 で 確 認 す る 事 後 : 自 分 の 意 見 を ま と め る		講 義 60 分 、 グ ル ー プ 討 議 30 分	
9	指 導 計 画 一 指 導 案 作 成 一 指 導 計 画 を 作 成 し 、 実 際 に 演 じ た り 、 発 表 し た り し て 、 互 い に 学 び を 深 め る					事 前 : 自 分 な り の 資 料 を 探 す 事 後 : 他 の 人 の 意 見 も ま と め る		模 擬 授 業 の 作 成 90 分	
10	指 導 の 具 体 化 一 模 擬 保 育 一 具 体 的 に 模 擬 保 育 を 行 い 、 保 育 ・ 教 育 者 と し て の 資 質 を 深 め る					事 前 : 模 擬 授 業 の 事 前 準 備 事 後 : 模 擬 授 業 の 反 省 を す る		模 擬 授 業 の 発 表 と 反 省 90 分	
11	園 の 安 全 管 理 一 施 設 ・ 設 備 等 の 安 全 管 理 や 災 害 発 生 時 の 対 応 体 制 や 避 難 へ の 備 え な ど 具 体 的 に 学 ぶ					事 前 : 配 布 資 料 を 基 に 予 習 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		講 義 50 分 、 意 見 交 換 40 分	
12	保 育 現 場 の 実 際 一 認 定 こ ど も 園 見 学 ・ 演 習 一 見 学 や DVD の 観 賞 な ど か ら 現 場 の 実 際 を 学 ぶ					事 前 : 配 布 資 料 で 予 習 す る 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		DVD 観 賞 40 分 、 レ ポ ー ト 30 分 、 意 見 交 換 20 分	
13	家 庭 と の 連 携 ・ 保 護 者 支 援 一 保 護 者 と 連 携 し て 子 ど も の 育 ち を 支 え る 視 点 を 学 ぶ					事 前 : 指 針 や 要 領 で 事 前 準 備 事 後 : 自 分 な り の ま と め を す る		講 義 50 分 、 意 見 交 換 40 分	
14	保 育 現 場 に 出 る 前 に 一 こ ど も ・ 子 育 て 新 制 度 を 踏 ま え て 一 子 ど も ・ 子 育 て 新 制 度 に つ い て 具 体 的 に 学 ぶ					事 前 : 子 育 て 新 制 度 の 事 前 確 認 事 後 : 自 分 な り の 制 度 の 確 認		講 義 50 分 、 意 見 交 換 40 分	
15	こ れ ま で の 学 び の 振 り 返 り 一 保 育 者 と し て 必 要 な 知 識 ・ 技 能 を 習 得 し た か の 振 り 返 り 、 確 認 す る					事 前 : 振 り 返 り の 事 前 準 備 事 後 : 皆 の 意 見 を 聞 き ま と め る		グ ル ー プ 討 議 と 発 表	
教 本 : テ キ ス ト 『 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 、 幼 稚 園 教 育 要 領 、 保 育 所 保 育 指 針 』					参 考 文 献 : 授 業 時 、 適 宜 指 示 す る 。 必 要 に 応 じ て プ リ ン ト を 配 布 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%)、 定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 己 課 題 を 持 っ て 予 習 ・ 復 習 を 行 っ て く だ さ い 。 配 布 資 料 及 び 講 義 内 容 の 整 理 を 行 っ て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 (環 境) (Early Childhood Education (Environment))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
身 近 な 環 境 や 事 物 に 好 奇 心 と 探 求 心 を も っ て 関 わ り、そ れ ら を 生 活 に 取 り 入 れ る こ と で 豊 か な 発 達 を 遂 げ て い く 子 ど も の 能 力 と そ の た め の 環 境 構 成 に つ い て 学 ぶ。子 ど も が 能 力 を 発 揮 す る 環 境 や 事 象、例 え ば、生 物 や 自 然 現 象、遊 具 ・ 数 量 ・ 図 形 に 実 際 に 触 れ、各 々 の 特 性 に つ い て 学 ぶ。授 業 方 法 は、演 習、話 し 合 い 活 動、グ ル ー プ 学 習 等 を 設 定 す る。ま た、視 聴 覚 教 材 の 活 用 や 模 擬 授 業 を ビ デ オ で 記 録 す る な ど 視 聴 覚 機 器 等 を 使 い 学 習 効 果 を 高 め る。									
授 業 目 標 :									
領 域 「環 境」の ね ら い、内 容 に つ い て 理 解 を 深 め る と と も に、幼 児 の 発 達 段 階 に 応 じ た 環 境 の 意 義 に つ い て 学 ぶ と と も に、具 体 的 な 指 導 場 面 を 想 定 し た 指 導 計 画 を 作 成 す る こ と に よ り 実 践 力 を 身 に 付 け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保 育 内 容 「環 境」の 意 義 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
2	幼 稚 園 教 育 要 領、保 育 所 保 育 指 針、幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 保 育 ・ 教 育 要 領 の 5 領 域 ね ら い と 内 容 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
3	好 奇 心 や 思 考 力 の 芽 生 え、探 究 心 を 育 て る 指 導 (視 聴 覚 教 材) に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
4	人 的 環 境 と し て の 友 だ ち ・ 保 育 者 と 物 的 環 境 と し て の 園 具 ・ 遊 具 ・ 素 材 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
5	自 然 環 境 と し て の 動 植 物、日 常 生 活 の 中 で の 興 味 や 関 心、文 字 や 数 量 の 体 験 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
6	幼 稚 園 教 育 に お け る 評 価 と 反 省 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
7	「幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 姿」と 小 学 校 教 育 と の 接 続 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (60 分) ・ グ ル ー プ (30 分)	
8	保 育 の 構 想 (長 期 の 計 画 と 短 期 の 計 画) に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
9	ね ら い 及 び 内 容 と 環 境 構 成 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
10	幼 児 の 活 動 を 豊 か に す る た め の 教 材 研 究 (幼 児 と 教 材 の 関 わ り)					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
11	季 節 に あ っ た 遊 び、地 域 の 自 然 を 利 用 し た 遊 び の 構 想 (幼 児 理 解 に 基 づ く 指 導 計 画 の 作 成) に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
12	模 擬 授 業 の 構 想 (準 備、役 割、教 材 の 準 備) に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
13	模 擬 授 業 の 実 施					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
14	模 擬 授 業 の 反 省 と 評 価、改 善 (環 境 構 成、保 育 者 の 援 助、教 材 等 は 適 切 で あ っ た か) ・ 第 13 回 の 模 擬 授 業 の 相 互 評 価 を 行 う。(模 擬 保 育 記 録 ビ デ オ の 活 用)					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：資 料 ・ テ キ ス ト で の 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
15	保 育 内 容 「環 境」か ら 見 た 実 践 的 課 題 に つ い て 考 え る。					事 前：資 料 ・ テ キ ス ト で の 確 認 事 後：ノ ー ト 整 理 ・ 復 習		講 義 (20 分) ・ 演 習 (70 分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
谷 田 貝 公 昭 監 修、大 沢 裕 ・ 野 末 晃 秀 編 著、コ ン パ ク ト 版 保 育 内 容 シ リ ー ズ ③ 『環 境』一 藝 社 (ISBN : 9784863591523)					『保 育 所 保 育 指 針 解 説 書』(最 新 版) 厚 生 労 働 省、『幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領』(最 新 版) 内 閣 府 文 部 科 学 省 ・ 厚 生 労 働 省				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
幼 稚 園 教 育 要 領 に 記 さ れ た 5 領 域 の ひ と つ 「環 境」に つ い て、楽 し く、わ か り や す く 授 業 を す す め た く 思 い ます。難 し い 理 論 で は な く、保 育 現 場 で 役 に 立 つ 内 容 を、と 考 え て い ます の で よ ろ し く お 願 い い た し ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 (健 康) (Early Childhood Education (Health))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 リヨ								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
乳幼児の基本的な生活習慣の形成、身体機能や運動能力、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、乳幼児が健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。									
授 業 目 標 :									
①乳幼児の身体機能や運動能力の発達について理解する。									
②望ましい生活リズムや基本的な生活習慣を形成するための保育者の役割について理解する。									
③進んで体を動かす子どもを育てるための保育者の役割について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス (授業の進め方、評価方法の説明、健康とは何か)				事前：シラバスの確認 事後：健康とは何かの復習			講義 50分、討論 20分、 発表 20分	
2	領域「健康」について (ねらいと内容)				事前：領域「健康」を読んでおく 事後：領域「健康」の復習			講義 70分、 グループ討議 20分	
3	子どもの心と体の健康 (幼児期の健康な生活とは)				事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習			講義 90分	
4	子どもの身体の発達と運動能力 ①子どもの身体の発達				事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
5	子どもの身体の発達と運動能力 ②運動能力と動きの獲得				事前：運動の能力について読んでおく 事後：運動能力の復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
6	生活習慣の獲得 (0～2歳児)				事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
7	生活習慣の獲得 (3～5歳児)				事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
8	保育の場における食育指導				事前：食に関する体験・活動を振り返る 事後：食育だよりの作成			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
9	遊びの意義と変遷				事前：遊びの定義について調べる 事後：遊びについての復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
10	運動遊びの実際				事前：運動遊びの体験を振り返る 事後：遊びと留意点の復習			講義 50分、演習 40分	
11	安全教育とその指導				事前：安全に関する部分を読んでおく 事後：安全に関する留意点の復習			講義 50分、グループ討 議 20分、発表 20分	
12	健康をテーマとした教材研究				事前：演習で扱う教材を探しておく 事後：教材づくり			教材研究 90分	
13	健康をテーマとした指導案の完成				事前：教材づくり 事後：演習 (模擬保育) への準備			指導案作成 90分	
14	健康をテーマとした教材発表 (模擬保育)				事前：展開について細案を作成する 事後：実施後の振り返り			発表 70分、討論 20分	
15	保育者の役割と援助 (乳幼児の育ちの理解)				事前：保育者の役割について読んでおく 事後：保育者としての自己を意識する			講義 60分、発表 30分	
教 本 :				参 考 文 献 :					
特になし。適宜プリントを配布する。				「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(いずれも最新版)。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
課題への取り組み (50%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義と演習科目である。主体的かつ積極的に参加する意欲が求められる。グループワークあり。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	保育内容(言葉)(Early Childhood Education (Language))						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>子どもの発達と特徴、言葉の本質と機能、言葉の障害について理解し、保育者についての話し方・聴き方、絵本などの児童文化財を教材として用いる方法を実践的に学修する。子ども達の言葉の発達に応じて、言葉の持つ意味やイメージ、感情をくみ取る力を支援することは保育者にとって必要な専門性である。言葉でやりとりすることの楽しさや大切さを子どもに伝えるための指導力・実践力を修得できるようにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>子どもが言葉を獲得する過程を知り、保育者として言葉に対する感性を豊かにすると共に、保育者の役割を理解し、子どもの言葉を育てるための指導力と実践力を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 言葉とは何か、言葉の獲得の意味について考える。					事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
2	保育内容に示されている領域「言葉」について理解する。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
3	乳幼児の言葉の発達 子ども言葉獲得の過程を理解する。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
4	言葉を育てる環境 生活や遊びの中で言葉を豊かにしていくために必要な環境や保育者の援助について考える。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
5	言葉の機能について考える 言葉には様々な機能や役割があることを学ぶ。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、ペアワーク 30分	
6	話し言葉と書き言葉 遊びや生活の中にある文字の有用性や必要性を考え、その援助について理解する。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
7	小学校との連携 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領のつながりを理解する。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
8	児童文化財の活用 様々な児童文化財に触れ、その活用について実践的に学ぶ。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
9	発達と絵本 絵本の読み聞かせについてこれまでの経験を踏まえて学んでいく。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
10	教材研究 ① 紙芝居について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
11	教材研究 ② ペーパーサートの作成					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、グループワーク 80分	
12	模擬保育 自作の教材を用いて模擬保育を行い検討する。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、グループワーク 80分	
13	指導案の作成 前時の模擬保育を振り返り指導案を作成する、PDCAを考えながら指導上の留意点に気づけるようにする。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
14	言葉を育てる言葉遊び 実際の体験を通して理論と実践の一体的に学ぶ。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、グループワーク 70分	
15	特別に支援を必要とする子どもの援助 保育者の役割と援助について学んだことをまとめていく。					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、グループワーク 30分	
<p>教本：</p> <p>必要に応じて資料を配付します。</p>					<p>参考文献：</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内発表等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>演習に積極的に参加することで、実践力を身につけてほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 (人 間 関 係) (Early Childhood Education (Human Relations))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 子ども同士の関わり、保育者とかかわり等、社会性を発達させる上で欠かせない人間関係のあり方全体を理解することを目的とする。子どもたちの人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ばせる。子どもの自主性・自立性の尊重とその促し方、および集団生活との関わり、ごっこ遊びと社会性との関連、社会性涵養の立場から各種行事や園外保育の意義を理解させる。また家庭・社会における人間関係、その中で培われる社会性についても取り上げる。 講義の他に、実践例を踏まえた課題研究発表、グループ討論、ロールプレイングを交えて授業を展開する。									
授 業 目 標 : 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、領域としての「人間関係」の目的、ねらい、内容、内容の取り扱いを理解し、子どもの社会性を育てるための視野を広げる。子どもの遊びと生活を、人間関係の観点で捉える眼を養う。人との関わりを育むために必要とされる知識や技能について理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	教 育 ・ 保 育 の 基 本 と 領 域 「人 間 関 係」					事 前 : 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
2	領 域 「人 間 関 係」の ね ら い 及 び 内 容					事 前 : 福 祉 の 考 え を ま と め る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		講 義 90 分	
3	人 間 関 係 の 発 展 の 道 筋					事 前 : 保 育 の 意 味 を 考 え る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		グ ル ー プ 討 論 60 分、 発 表 30 分	
4	0 歳 児 か ら 2 歳 児 の 人 間 関 係 — そ の 指 導 法 と 評 価					事 前 : 発 展 に つ い て 復 習 す る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 90 分	
5	3 歳 児 か ら 5 歳 児 の 人 間 関 係 — そ の 指 導 法 と 評 価					事 前 : 2 歳 児 ま で の 人 間 関 係 を 復 習 す る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 90 分	
6	愛 着 形 成 の 理 論 と 実 際					事 前 : テ キ ス ト を 読 ん で お く 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		講 義 60 分、 グ ル ー プ 討 論 30 分	
7	自 己 主 張 と 自 己 抑 制 — 道 徳 性 の 芽 生 え を 育 む た め に					事 前 : 素 質 に つ い て 考 え て お く 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 90 分	
8	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 の 育 成					事 前 : 家 庭 の 育 ち を 考 え る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 90 分	
9	領 域 「人 間 関 係」の 教 材 作 成 と 情 報 機 器 の 活 用					事 前 : PC の 操 作 に 慣 れ て お く 事 後 : 教 材 を 作 っ て み る		演 習 90 分	
10	領 域 「人 間 関 係」の 指 導 案 作 成					事 前 : 指 導 案 作 成 の 手 順 を 確 認 す る 事 後 : 作 成 し た 指 導 案 を 見 直 す		演 習 90 分	
11	領 域 「人 間 関 係」の 模 擬 授 業 (ロ ー ル プ レ イ ン グ)					事 前 : 指 導 案 を 読 み 込 む 事 後 : 模 擬 保 育 の 反 省 を す る		演 習 90 分	
12	人 と の か か わ り が 難 し い 子 ど も へ の 支 援					事 前 : 望 ま し い 経 験 を 考 え る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 90 分	
13	異 年 齢 児、地 域 社 会 と の 関 わ り、自 然 環 境 の 中 で 育 つ 人 間 関 係 の 支 援					事 前 : 遊 び の 特 徴 を 考 え る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 60 分、 グ ル ー プ 討 論 30 分	
14	領 域 「人 間 関 係」と 他 の 領 域 と の 関 連					事 前 : 保 育 者 の 役 割 を 考 え る 事 後 : ノ ー ト を 読 み 返 す		演 習 60 分、 グ ル ー プ 討 論 30 分	
15	幼 小 連 携 の 課 題 — 人 間 関 係 育 成 の 視 点 か ら					事 前 : 時 事 問 題 の 記 事 を 読 む 事 後 :		講 義 90 分	
教 本 : 『コンパクト版保育内容シリーズ・人間関係』高橋弥生・福田真奈編著 (一藝社)					参 考 文 献 : 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)」(チャイルド社)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 領域としての「人間関係」のねらい、内容また社会性を育てるための知識・技能について理解ができているか、また子どもの遊びと生活を人間関係の視点から捉えることができるかを複数回のレポート提出及び筆記試験によって総合的に評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社会性の育ちに対して、新聞記事を読んだり、インターネットで調べる習慣を身につけること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	保育内容(表現)(Early Childhood Education (Expression))						科目分類	専門科目	
担当教員	古金 悦子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている領域「表現」の内容について、乳幼児の発達、保育者の役割や援助、環境などの観点から具体的に理解する。造形、音楽、言葉、身体などでの様々な表現のあり方を学び、保育者としての感性を磨きながら実践力を身につけていく。ピアノと歌唱の技術を向上させるため練習と発表の機会を設ける。</p>									
<p>授業目標： 表現の視点から乳幼児の発達の過程を理解し、保育者としての指導力と実践力を身に付ける。感性を豊かにし、表現に関する教材活用のための理論と実践を一体的に行える力を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など					事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
2	表現の楽しさを体験する（言語表現・音楽表現・造形表現・身体表現）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 実技演習 60分	
3	乳幼児の発達と表現について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらい・内容について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
5	総合的表現活動としての劇遊びについて					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義・DVD視聴60分、 グループワーク30分	
6	音楽表現の創作 ①（楽器の扱い方、合奏の楽しみ）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
7	音楽表現の創作 ②（合奏譜を作り、練習する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 グループワーク 80分	
8	音楽表現の創作 ③（グループごとに発表する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表 70分	
9	乳幼児の表現力を育むための環境と援助について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
10	領域表現と行事について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
11	身体表現の創作 ①（グループで身体表現を創作する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 グループワーク 70分	
12	身体表現の創作 ②（幼児への指導法を工夫する）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 グループワーク 80分	
13	身体表現の創作 ③（発表と振り返り）					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表 70分	
14	指導案の作成について					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 40分、 グループワーク 50分	
15	学修のまとめ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
<p>教本： 必要に応じて資料を配付します。</p>					<p>参考文献： 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業内発表等（40%）、レポート（30%）、小テスト（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 毎回の授業の中で演習を通して知識と技能を身につけて欲しいと考えています。欠席しないようにして下さい。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 総 論 (Overview of Early Childhood Education)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
「幼稚園教育要領」などをふまえた幼稚園や保育所における指導の基本及び教育課程、長期の指導計画、短期の指導計画、評価に至る指導計画の作成について理解することにより、発達や学びの連続性を踏まえた総合的な実践力を身に付ける。									
授 業 目 標 :									
環境を通して学ぶ教育の意義、各領域のねらい、小学校教育との接続について、事例を基に話し合い理解を深める。また、幼児の発達や学びの過程を理解するために、指導計画等の資料収集を行いそれらの比較検討することにより環境構成や教師の支援、評価手法について学ぶ。また、実際に指導計画を作成し模擬保育を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	教育環境を通して行う教育の意義について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理念、ねらいと内容について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
3	保育所・幼稚園・こども園における5領域のねらい、内容について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
4	一人一人の特性に応じた指導の在り方について実践事例を通して学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
5	特別な支援を必要とする子どもへの理解と援助方法及びクラス運営について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
6	質の高い教育・保育の実現するカリキュラム・マネジメント(P・D・C・A)について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
7	幼児の学びの連続性や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、小学校との接続について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
8	教育課程と全体的な計画、保健計画、食育計画の関連性について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
9	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境構成の在り方について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
10	視聴覚機器及び情報機器等の活用した教育実践の在り方について学ぶ。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
11	模擬保育をグループでデザインする。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
12	模擬保育の計画(幼児理解・ねらい・内容・環境構成・保育者の支援・評価)をグループで話し合い作成する。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
13	模擬保育の実施と反省評価					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		模擬保育の実施(90分)	
14	実際の保育の場における実践例と、その解説					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
15	これからの教育・保育の在り方について考える。					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義(60分)・グループ(30分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 谷田貝公昭監修 大沢裕・高橋弥生編著、『幼児教育方法論』一藝社 (ISBN 未定)					文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録」』チャイルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
自 分 の 将 来 の 姿 を 考 え、保 育 に 夢 と 希 望 を 持 ち な が ら、授 業 に の ぞ む こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 の 心 理 学 I (Psychology of Childcare I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本 講 座 で は、保 育 実 践 と 関 係 の 深 い 心 理 学 の 基 礎 的 理 論 を 学 び、子 ども が 人 と の か か わ り を 通 じ て 発 達 し て い く こ と を 理 解 し て い く。ま た、人 生 に お け る 初 期 経 験 が 生 涯 発 達 に 大 き な 影 響 を 与 え る こ と を 理 解 し、子 ども の 発 達 援 助 に 保 育 者 が ど の よ う に か か わ る べ き か を 考 察 し て い く。									
授 業 目 標 :									
1. 保 育 実 践 に か か わ る 心 理 学 の 知 識 を 習 得 す る。 2. 子 ども の 発 達 に か か わ る 心 理 学 の 基 礎 を 習 得 し、子 ども へ の 理 解 を 深 め る。 3. 子 ども が 人 と の 相 互 的 か か わ り を 通 じ て 発 達 し て い く こ と を 具 体 的 に 理 解 す る。 4. 生 涯 発 達 の 観 点 か ら 発 達 の プ ロ セ ス や 初 期 経 験 の 重 要 性 に つ い て 理 解 し、保 育 と の 関 連 を 考 察 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	保 育 と 心 理 学 ー(1) 子 ども の 発 達 を 理 解 す る こ と の 意 義					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (子 ども の 発 達) 事 後 : 復 習 (子 ども の 発 達 の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分
2	保 育 と 心 理 学 ー(2) 保 育 実 践 の 評 価 と 心 理 学					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (評 価 他) 事 後 : 復 習 (保 育 実 践 の 評 価 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
3	保 育 と 心 理 学 ー(3) 発 達 観、子 ども 観 と 保 育 観					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (発 達 観) 事 後 : 復 習 (子 ども 観、発 達 観 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
4	子 ども の 発 達 理 解 ー(1) 子 ども の 発 達 と 環 境					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (発 達 と 環 境) 事 後 : 復 習 (環 境 と 発 達 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
5	子 ども の 発 達 理 解 ー(2) 感 情 と 自 己 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (感 情 と 発 達) 事 後 : 復 習 (自 己 発 達 と 感 情 と の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
6	子 ども の 発 達 理 解 ー(3) 身 体 的 機 能 と 運 動 機 能 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (身 体 ・ 運 動 機 能) 事 後 : 復 習 (身 体 ・ 運 動 機 能 の 発 達 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
7	子 ども の 発 達 理 解 ー(4) 知 覚 と 認 知 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (知 覚 と 認 知) 事 後 : 復 習 (知 覚 と 認 知 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
8	子 ども の 発 達 理 解 ー(5) 言 語 の 発 達 と 社 会 性					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (言 語 ・ 社 会 性) 事 後 : 復 習 (言 語 ・ 社 会 性 の 発 達 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
9	人 と の か か わ り と 子 ども の 発 達 ー(1) 人 と の か か わ り あ い と 子 ども の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (人 間 関 係) 事 後 : 復 習 (人 間 関 係 と 発 達 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
10	人 と の か か わ り と 子 ども の 発 達 ー(2) 思 い や り の 心 と 道 徳 性 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (道 徳 性) 事 後 : 復 習 (道 徳 性 の 発 達、ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
11	自 ら 学 ぶ 心 の そ だ ち ー(1) 学 び の さ ま ざ ま (学 習 理 論)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (学 習 理 論) 事 後 : 復 習 (学 習 理 論 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
12	自 ら 学 ぶ 心 の そ だ ち ー(2) 学 び の 意 欲 (動 機 づ け)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (動 機 づ け) 事 後 : 復 習 (動 機 づ け の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
13	自 ら 学 ぶ 心 の そ だ ち ー(3) 人 間 関 係 の な か で の 学 び					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (人 間 関 係) 事 後 : 復 習 (人 間 関 係 の 中 で の 学 び の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分
14	生 涯 発 達 の プ ロ セ ス と 援 助 ー(1) 生 涯 発 達 と い う 考 え 方					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (生 涯 発 達) 事 後 : 復 習 (生 涯 発 達 に つ い て ま と め る)			講 義 60 分 討 議 30 分
15	生 涯 発 達 の プ ロ セ ス と 援 助 ー(2) 生 涯 発 達 の 考 え 方 に 基 づ く 援 助 及 び 各 時 期 の 発 達 的 特 徴 と 援 助					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 (各 時 期 の 発 達) 事 後 : 復 習 (生 涯 を 通 じ て の こ の 時 期 の 発 達 の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分
教 本 :					参 考 文 献 :				
「実 践 に つ な が る 新 し い 保 育 の 心 理 学」 ミ ネ ル ヴ ァ 書 房 ¥2,200					岩 井 邦 夫 / 高 橋 道 子 / 高 橋 義 信 / 堀 内 ゆ か り 共 著 「グ ラ フ ィ ッ ク 乳 幼 児 心 理 学」 サ イ エ ン ス 社 ¥2,400				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で は、一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら い ま す。単 元 に よ っ て は 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ り ま す。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 の 心 理 学 II (Psychology of Childcare II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 の 心 理 学 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 保 育 の 心 理 学 I で 学 ぶ 保 育 実 践 と 関 係 の 深 い 基 礎 的 理 論 を 踏 ま へ て、保 育 者 が 保 育 現 場 で 直 面 す る 具 体 的 援 助 に つ い て 学 び、子 ども 理 解 を さ ら に 深 め て い っ ます。そ の 上 で、実 際 の 保 育 事 例 に 基 づ く 対 応 方 法 を グ ル ー プ ワ ー ク や カ ン フ ェ ー ン ス を 通 じ て 体 験 的 に 学 習 し て い っ ます。ま た、子 ども や 保 護 者 支 援 に お け る カ ウ ン セ リ ン グ の 方 法 を 学 び、理 論 と 保 育 実 践 と の 関 連 を 考 え、専 門 家 や 他 機 関 と 連 携 し て 協 働 で き る 実 力 あ る 保 育 者 を 目 指 す 演 習 と し た い と 思 い っ ます。									
授 業 目 標 : 1. 子 ども の 心 身 の 発 達 と 環 境 に つ い て 学 び、保 育 を 実 践 す る 上 で の 留 意 点 に つ い て 考 え る。 2. 子 ども が 生 活 や 遊 び を 通 じ て 学 ぶ 過 程 を 理 解 し、そ れ を 基 礎 と し て 生 涯 に わ た る “生 き る 力” に つ い て 考 え る。 3. 保 育 に お け る 子 ども の 発 達 援 助 に つ い て 学 び、実 際 の 支 援 方 法 に つ い て 考 え る。 4. 現 代 社 会 に お け る 子 ども の 発 達 と、こ れ か ら の 保 育 の 課 題 や 展 望 に つ い て 考 え る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	1. 子 ども の 発 達 と 保 育 実 践 ー (1) 子 ども 理 解 に お け る 発 達 の 把 握					事 前 : な し 事 後 : 子 ども の 発 達 理 解 に つ い て ま と め る		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
2	(2) 個 人 差 や 発 達 課 程 に 応 じ た 保 育					事 前 : 個 人 差 に つ い て 調 べ る 事 後 : 個 人 差 ・ 発 達 過 程 の ま と め		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
3	(3) 身 体 感 覚 を 伴 う 多 様 な 経 験 と 環 境 と の 相 互 作 用 (4) 環 境 と し て の 保 育 者 と 子 ども の 発 達					事 前 : 身 体 感 覚 に つ い て 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (3) (4) の ま と め		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
4	(5) 子 ども の 相 互 の か か わ り と 関 係 づ くり (6) 自 己 主 張 と 自 己 統 制					事 前 : 子 ども の 人 間 関 係 を 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (5) (6) の ま と め		講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
5	(7) 子 ども 集 団 と 保 育 の 環 境					事 前 : 子 ども 集 団 と 環 境 を 調 べ る 事 後 : 保 育 環 境 の ま と め		講 義 30 分 グ ル ー プ ワ ー ク 60 分	
6	2. 生 活 や 遊 び を と お し た 学 び の 過 程 ー (1) 子 ども の 生 活 と 学 び					事 前 : 遊 び に つ い て 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (1) の ま と め		講 義 20 分 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
7	(2) 子 ども の 遊 び と 学 び					事 前 : 遊 び を 通 し た 学 び を 考 え る 事 後 : テ キ ス ト (2) の ま と め		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 80 分 振 り 返 り 10 分	
8	(3) 生 涯 に わ た る 生 き る 力 の 基 礎 を 培 う					事 前 : 生 き る 力 と は 何 か 考 え る 事 後 : テ キ ス ト (3) の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
9	3. 保 育 に お け る 発 達 援 助 ー (1) 基 本 的 生 活 習 慣 の 獲 得 と 発 達 援 助					事 前 : 基 本 的 生 活 習 慣 を 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (1) の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
10	(2) 自 己 の 主 体 性 の 形 成 と 発 達 援 助 (3) 発 達 の 課 題 に 応 じ た 援 助 や か か わ り					事 前 : 自 己 主 体 性 に つ い て 考 え る 事 後 : テ キ ス ト (2) (3) の ま と め		講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
11	(4) 発 達 や 学 び の 連 続 性 と 就 学 へ の 支 援					事 前 : 就 学 支 援 に つ い て 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (4) の ま と め		講 義 30 分 討 議 60 分	
12	(5) 発 達 援 助 に お け る 協 働					事 前 : 協 働 と は 何 か 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (5) の ま と め		講 義 30 分 討 議 60 分	
13	4. 現 代 社 会 に お け る 子 ども の 発 達 と 保 育 の 課 題 ー (1) 乳 幼 児 を も つ 家 族 の 現 状					事 前 : 現 代 の 子 ども 発 達 に つ い て 調 べ る 事 後 : 家 族 の 現 状 の ま と め		事 例 検 討 討 議 90 分	
14	(2) 子 ども の 発 達 に 影 響 す る 要 因 (3) 保 育 所 ・ 幼 稚 園 に お け る 子 育 て 支 援					事 前 : 子 育 て 支 援 に つ い て 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (2) (3) の ま と め		講 義 60 分 振 り 返 り 30 分	
15	(4) 親 子 を 支 え る カ ウ ン セ リ ン グ					事 前 : カ ウ ン セ リ ン グ を 調 べ る 事 後 : テ キ ス ト (4) の ま と め		講 義 70 分 グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
教 本 : 「保 育 士 養 成 課 程 ー 保 育 の 心 理 学 II」 小 田 豊 監 修、丹 羽 さ が の 編 著 光 生 館 ¥1,900					参 考 文 献 : 「子 ども の 発 達 心 理 学」 高 橋 道 子 / 藤 崎 真 知 代 / 仲 真 紀 子 / 野 田 幸 江 著 新 曜 社 ¥1,900				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 保 育 の 心 理 学 は、平 成 22 年 か ら 新 し く 保 育 士 養 成 課 程 で 定 め ら れ た 科 目 で す。保 育 者 と し て 最 低 限 マ ス タ ー し て お き た い 実 践 に 即 し た 心 理 学 の 科 目 で す か ら、授 業 で 学 ぶ 前 に テ キ ス ト に 目 を 通 す な ど し て 理 解 を 深 め る よ う 心 掛 け て く だ さ い。ま た、グ ル ー プ ワ ー ク や ケ ー ス カ ン フ ェ ー ン ス な ど の 演 習 で は、実 践 力 を 身 に つ け る よ う 積 極 的 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。 水 曜 日 の 昼 休 み									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	法 学 (Law)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本講義では、法と社会規範の関係とその差異から出発し、法システムの機能、法の強制力、道徳の共通性と違い、法と正義を概観し、日本の裁判員制度、法の効力など扱います。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授 業 目 標 :									
基礎法学、実定法、国際法の基礎を中心に法の基本的な知識を習得し、法学的視点と法学の論理を身につけること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分	
2	法とは何か(1) 法の存在形式				事前：法源とは何かについて調べる。 事後：法の存在形式をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
3	法とは何か(2) 法律と社会規範				事前：法と社会規範の違いを調べる。 事後：法と社会規範の違いをまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
4	法システムの機能(1) 法の規範的機能				事前：法の規範的機能とは何かを調べる。 事後：法の規範的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
5	法システムの機能(2) 法の社会的機能				事前：法の社会的機能とはどのようなものを調べる。 事後：法の社会的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
6	法と強制(1) 法と強制／犯罪と刑罰				事前：法と強制、犯罪と刑罰について調べる。 事後：法と強制、犯罪と刑罰をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
7	法と強制(2) 刑罰の性質とその正当化				事前：刑罰の性質とその正当化について調べる。 事後：法的強制の多様化と変貌をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
8	法と道徳(1) 法と道徳／自然法論と法実証主義				事前：法と道徳の関係を考える。 事後：自然法論と法実証主義をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
9	法と道徳(2) 法による道徳の強制				事前：法による道徳の強制は妥当か考える。 事後：パターンリズムと自己決定権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
10	法と正義(1) 法の目的と正義				事前：法の目的と正義を考える。 事後：正義観念と法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
11	法と正義(2) 現代正義論の動向				事前：正義論について調べる。 事後：現代正義論の動向についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
12	日本の裁判員制度				事前：裁判員制度を調べる。 事後：司法への国民参加をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
13	法の効力(1) 法の形式的効力—段階的構造—				事前：法の効力に必要なことは何かを考える。 事後：法の形式的効力(段階的構造)をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
14	法の効力(2) 憲法と条約／法の効力の範囲				事前：憲法と条約の関係を調べる。 事後：法の効力の範囲をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
15	効力による法の分類／まとめ				事前：一般法と特別法の区別を調べる。 事後：強行法と任意法の区別をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
とくになし(資料を配布します)。					授 業 中 に 適 宜 指 示 し ます。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	法 学 (Law)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	三 枝 昌 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義では法について多角的な検討を行い、法の意義を考える。最初に法の性質や分類、法的紛争解決の仕組みなどを解説し、それらの知識を踏まえて現行法制度の概要を解説する。講義では具体的事例も取り上げ、法的問題の解決方法についても学習する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 法と法学に関する基礎知識を習得すること。 2. 現行法制度の概要を理解すること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	法と他の社会規範(道徳など)の違いについて学習する。各自の見解をまとめ、討論する。					事前: シラバスの熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、討論20分	
2	条文の探し方や読み方について学習する。簡単な法律を素材に法律や条文の構造を読み解く練習をする。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
3	法の解釈方法について学習する。身近なルールを素材に条文解釈の練習をする。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
4	裁判の仕組みについて学習する。裁判の課題について各自の見解をまとめ、討論する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、討論20分	
5	憲法の歴史や分類について学習する。憲法の意義について各自の見解をまとめ、討論する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、討論20分	
6	統治の仕組みについて学習する。統治に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
7	人権保障の仕組みについて学習する。人権に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
8	刑法の基本原則について学習する。刑法の意義や機能について各自の見解をまとめ、討論する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、討論20分	
9	犯罪の成立要件について学習する。具体的事例を素材に犯罪が成立するかを検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
10	民法(財産法)の仕組みについて学習する。民法総則に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
11	物権の基礎事項について学習する。物権に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
12	債権の基礎事項について学習する。債権に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
13	家族法の仕組みについて学習する。家族法に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
14	労働法の歴史や基本原則について学習する。労働法の意義について各自の見解をまとめ、討論する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、討論20分	
15	労働法の仕組みについて学習する。労働法に関する事例問題を検討する。					事前: 配布資料の熟読 事後: 授業内容のまとめ		講義70分、演習20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使用しない(レジュメを配布する)。					使用しない。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
日 頃 から ニ ュ ー ス を 確 認 し て 法 に 関 す る 情 報 を 収 集 し て お く こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法の性格と役割 (Introduction to Law)						科目分類	専門科目	
担当教員	上地 一郎								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>法学では、実定法の解釈・適用のあり方を探求することを目的とする法解釈学が重要な部分を占める。この講義では、法の性格と法が現実の社会の中でどのような役割を果たしているのか(あるいはいないか)、法と社会が互いにどのように影響を及ぼしあっているかという問題意識を持ってもらうことを目的としている。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>法社会学的な法の捉え方を学ぶことで、法と法にまつわる諸現象に対する分析能力を高め、法学的視点と法学の論理を身につけること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	オリエンテーション			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 80分 質疑応答 10分		
2	法システムと法過程(1) 法をどのように捉えるか			事前：法とは何かを調べる 事後：法の捉え方をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
3	法システムと法過程(2) 法システムと法過程			事前：システムの語義を調べる 事後：法システムと法過程についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
4	法文化(1) 法文化の語義			事前：文化とは何かを調べる 事後：文化論をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
5	法文化(2) 法文化の理論			事前：法文化とは何かを考える 事後：法文化の理論をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
6	法文化(3) 日本の法文化論			事前：日本の法文化を調べる 事後：日本の法文化論をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
7	法文化(4) 日本人の法観念			事前：法観念とは何かを調べる 事後：日本人の法観念について意見をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
8	日本社会と法(1) 争いの少ない社会? 裁判を使わない社会?			事前：日本における法使用を調べる 事後：なぜ日本では裁判が少ないかまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
9	日本社会と法(2) 制度からのアプローチ			事前：日本の司法制度について調べる 事後：日本の司法制度の問題についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
10	日本社会と法(3) 法律家の国際比較： 法曹人口の国際比較			事前：法律家の役割を調べる 事後：なし			講義 80分 質疑応答 10分		
11	日本社会と法(4) 法律家の国際比較： 日本のパラリーガル			事前：隣接法律専門職について調べる 事後：日本の隣接法律専門職についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
12	裁判員制度：司法制度改革審議会の設置と裁判員制度			事前：裁判員制度について調べる 事後：国民の司法参加についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
13	日本の法曹養成制度改革(1) 法曹養成制度改革の背景			事前：構造改革について調べる 事後：司法制度改革の目的をまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
14	日本の法曹養成制度改革(2) 日本型ロースクール制度			事前：法科大学院について調べる 事後：日本の法科大学院の課題についてまとめる			講義 80分 質疑応答 10分		
15	まとめ			事前：質疑事項のまとめ 事後：すべての復習			質疑応答 30分 ディスカッション 60分		
教本： とくになし (資料を配布します)。				参考文献： 授業中に適宜指示します。					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常の社会の問題を考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 原 理 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授 業 目 標 :									
複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	資産・負債・純資産 (資本)					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。					な し				
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー :									
初回講義日に伝える。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅰ (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目	
担当教員	高橋 琢也								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記原理Ⅰは、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。以下の授業内容は予定であり、必要に応じて変更する場合がある。									
授業目標： 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記と財務諸表（簿記の基礎知識） 簿記の基礎となる知識について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	仕訳 基本的な仕訳について理解を深める。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	仕訳と勘定への転記（総勘定元帳） 総勘定元帳への転記について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	決算1（試算表の作成） 試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	決算2（財務諸表の作成） 財務諸表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	現金（現金出納帳・現金過不足） 現金に係る処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	当座預金（当座預金出納帳・当座借越） 当座預金に係る処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	小口現金とその他の預金（小口現金出納帳） 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	商品売買取引1（分記法と3分法） 分記法と3分法の仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	商品売買取引2（売上原価計算） 商品に係る売上原価計算について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	商品売買取引3（補助簿） 商品に係る補助簿について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
13	売上債権と仕入債務1（掛けと手付金） 掛けと手付金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	売上債権と仕入債務2（手形） 手形の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 渡辺裕巨 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕巨 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰを必ず履修すること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。</p> <p>授業目標：</p> <p>複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金・預金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	商品売買Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	商品売買Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	有価証券の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	手形取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	その他の債券・債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	固定資産と減価償却					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	純資産・税金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算の手続きⅠ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	決算の手続きⅡ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	決算の手続きⅢ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	決算の手続きⅣ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本：					参考文献：				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。					渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 原 理 Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 簿 記 原 理 Ⅱ で は、簿 記 原 理 Ⅰ か ら 継 続 し て 簿 記 の 基 本 的 な 技 術 ・ 知 識 に つ い て 学 習 し て い く。ま た、簿 記 原 理 Ⅱ は、会 計 関 連 科 目 の 基 礎 ・ 前 提 と な る 科 目 で あ り、簿 記 の 仕 組 み と 原 理 を 理 解 す る こ と が 肝 要 で あ る。ま た、簿 記 原 理 Ⅰ と 連 続 す る 科 目 で あ る た め、簿 記 原 理 Ⅰ を 履 修 し て い る 必 要 が あ る。本 講 義 で は、簿 記 の 理 論 的 説 明 と と も に、問 題 演 習 を 行 う。									
授 業 目 標 : 日 商 簿 記 3 級 レ ベ ル の 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿 記 原 理 Ⅰ の 復 習 1 (簿 記 の 基 礎) 簿 記 原 理 Ⅰ の 簿 記 に 関 す る 基 礎 に つ い て 復 習 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 50 分 問 題 演 習 40 分	
2	簿 記 原 理 Ⅰ の 復 習 2 (仕 訳 の 問 題 演 習) 簿 記 原 理 Ⅰ で 扱 っ た 仕 訳 を 問 題 演 習 と お し て 復 習 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 40 分 問 題 演 習 50 分	
3	簿 記 原 理 Ⅰ の 復 習 3 (試 算 表 の 作 成) 簿 記 一 巡 の 手 続 き の 試 算 表 ま で を 復 習 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
4	貸 倒 引 当 金 貸 倒 引 当 金 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
5	掛 ・ 手 形 以 外 の 債 権 ・ 債 務 掛 と 手 形 以 外 の 債 権 ・ 債 務 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
6	有 形 固 定 資 産 と 減 価 償 却 1 有 形 固 定 資 産 と 減 価 償 却 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
7	有 形 固 定 資 産 と 減 価 償 却 2 第 6 回 に つ い て、有 形 固 定 資 産 の 処 理 の 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
8	純 資 産 と 決 算 振 替 仕 訳 純 資 産 と 決 算 振 替 仕 訳 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
9	収 益 ・ 費 用 と 経 過 勘 定 項 目 経 過 勘 定 項 目 を 中 心 に 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
10	税 金 (法 人 税 等、消 費 税) 法 人 税 等 や 消 費 税 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
11	伝 票 と 仕 訳 伝 票 の 起 票 を 中 心 に 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
12	決 算 1 (試 算 表 の 作 成) 決 算 の う ち、試 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
13	決 算 2 (精 算 表 の 作 成) 決 算 の う ち、精 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
14	決 算 3 (財 務 諸 表 の 作 成) 決 算 の う ち、財 務 諸 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
15	問 題 演 習 3 (決 算) 第 14 回 ま で の 内 容 の 理 解 度 を み る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 問 題 演 習 の 復 習		問 題 演 習 90 分	
教 本 : 渡 辺 裕 亘 他 『検 定 簿 記 講 義 3 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。 渡 辺 裕 亘 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 3 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。					参 考 文 献 : 適 宜、指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 試 験 (100%) で 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。									
授 業 目 標 :									
複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	資産・負債・純資産 (資本)					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。					な し				
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 I (Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記論 I は、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。以下の授業内容は予定であり、必要に応じて変更する場合がある。									
授 業 目 標 :									
日商簿記 3 級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記と財務諸表 (簿記の基礎知識) 簿記の基礎となる知識について解説する。					事前: シラバスを読む 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
3	仕訳 基本的な仕訳について理解を深める。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
4	仕訳と勘定への転記 (総勘定元帳) 総勘定元帳への転記について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
5	決算 1 (試算表の作成) 試算表の作成について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
6	決算 2 (財務諸表の作成) 財務諸表の作成について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
7	現金 (現金出納帳・現金過不足) 現金に係る処理について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
8	当座預金 (当座預金出納帳・当座借越) 当座預金に係る処理について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
9	小口現金とその他の預金 (小口現金出納帳) 小口現金出納帳を中心に解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
10	商品売買取引 1 (分記法と 3 分法) 分記法と 3 分法の仕訳について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
11	商品売買取引 2 (売上原価計算) 商品に係る売上原価計算について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
12	商品売買取引 3 (補助簿) 商品に係る補助簿について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
13	売上債権と仕入債務 1 (掛けと手付金) 掛けと手付金の処理について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
14	売上債権と仕入債務 2 (手形) 手形の処理について解説する。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。					事前: 復習ノートの見返し 事後: 復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡辺裕巨 他『検定簿記講義 3 級商業簿記』、中央経済社。					適宜、指示する。				
渡辺裕巨 他『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
試験 (100%) で評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
必ず電卓を用意すること (スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー :									
初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記論Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	川口 修								
履修条件	前提科目	簿記論Ⅰを必ず履修すること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。</p> <p>授業目標：</p> <p>複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金・預金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	商品売買Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	商品売買Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	有価証券の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	手形取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	その他の債券・債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	固定資産と減価償却					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	純資産・税金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	決算の手続きⅠ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	決算の手続きⅡ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	決算の手続きⅢ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	決算の手続きⅣ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本：					参考文献：				
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。					渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 II (Bookkeeping II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 簿記論IIでは、簿記論Iから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記論IIは、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。また、簿記論Iと連続する科目であるため、簿記論Iを履修している必要がある。本講義では、簿記の理論的説明とともに、問題演習を行う。									
授 業 目 標 : 日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記論Iの復習1 (簿記の基礎) 簿記論Iの簿記に関する基礎について復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 50分 問題演習 40分	
2	簿記論Iの復習2 (仕訳の問題演習) 簿記論Iで扱った仕訳を問題演習をとおして復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 40分 問題演習 50分	
3	簿記論Iの復習3 (試算表の作成) 簿記一巡の手続きの試算表までを復習する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
4	貸倒引当金 貸倒引当金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
5	掛・手形以外の債権・債務 掛と手形以外の債権・債務について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
6	有形固定資産と減価償却1 有形固定資産と減価償却について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
7	有形固定資産と減価償却2 第6回につづいて、有形固定資産の処理の理解を深める。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
8	純資産と決算振替仕訳 純資産と決算振替仕訳について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
9	収益・費用と経過勘定項目 経過勘定項目を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
10	税金 (法人税等、消費税) 法人税等や消費税について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
11	伝票と仕訳 伝票の起票を中心に解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 30分 問題演習 60分	
12	決算1 (試算表の作成) 決算のうち、試算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
13	決算2 (精算表の作成) 決算のうち、精算表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
14	決算3 (財務諸表の作成) 決算のうち、財務諸表の作成について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		講義 20分 問題演習 70分	
15	問題演習3 (決算) 第14回までの内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習		問題演習 90分	
教 本 : 渡辺裕巨 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕巨 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。					参 考 文 献 : 適宜、指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 試験 (100%) で評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必ず電卓を用意すること (スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 Ⅲ (中 級) (Bookkeeping Ⅲ (Intermediate))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 簿 記 論 Ⅲ (中 級) では、簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ に 続 き、簿 記 の 基 本 的 な 知 識 を 理 解 し た う え で、日 商 簿 記 2 級 レ ベ ル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 に つ い て 授 業 を 行 う。その ため、簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ を 履 修 し て い る 必 要 が あ る。									
授 業 目 標 : 日 商 簿 記 2 級 レ ベ ル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿 記 一 巡 の 手 続 き の 復 習 簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ の 復 習 を 問 題 演 習 を と お し て 行 う。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
2	財 務 諸 表 の 特 徴 財 務 諸 表 の 種 類 と 特 徴 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
3	現 金 預 金 基 本 的 な 仕 訳 を 含 め、銀 行 勘 定 調 整 表 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
4	手 形 に か か る 処 理 手 形 の 裏 書 ・ 割 引、更 改、不 渡 り 等 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
5	有 価 証 券 に か か る 処 理 1 有 価 証 券 の 分 類、評 価 等 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
6	有 価 証 券 に か か る 処 理 2 第 5 回 に つ い て、有 価 証 券 の 処 理 に つ い て 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
7	債 務 の 保 証 と 保 険 金 の 処 理 債 務 の 保 証 と 保 険 金 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
8	商 品 売 買 と 棚 卸 減 耗 損 ・ 商 品 評 価 損 1 棚 卸 減 耗 損 と 商 品 評 価 損 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
9	商 品 売 買 と 棚 卸 減 耗 損 ・ 商 品 評 価 損 2 第 8 回 に つ い て、商 品 売 買 に つ い て 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
10	固 定 資 産 に か か る 処 理 固 定 資 産 の 取 得、売 却 等、減 価 償 却 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
11	引 当 金 に か か る 処 理 引 当 金 の 種 類 と 設 定 等 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
12	収 益 ・ 費 用 に か か る 処 理 収 益 と 費 用 の 種 類 と 収 益 認 識 基 準 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
13	純 資 産 に か か る 処 理 純 資 産 の 種 類 と 準 備 金 等 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
14	税 金 の 処 理 法 人 税 と 消 費 税 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
15	問 題 演 習 前 期 内 容 の 理 解 度 を み る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		問 題 演 習 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
滝 澤 な な み 『み ん な が 欲 し か っ た 簿 記 の 教 科 書 日 商 2 級 商 業 簿 記』、TAC。 渡 辺 裕 巨 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 試 験 (100%) で 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿 記 論 Ⅳ (中 級) (Bookkeeping IV (Intermediate))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ 簿 記 論 Ⅲ (中 級)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 簿 記 論 Ⅳ (中 級) では、簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ に 続 き、簿 記 の 基 本 的 な 知 識 を 理 解 し た う え で、日 商 簿 記 2 級 レベル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 に つ い て 授 業 を 行 う。そ の た め、簿 記 論 Ⅰ ・ Ⅱ を 履 修 し て い る 必 要 が あ る。ま た、中 級 簿 記 Ⅰ の つ づ き の 科 目 で あ る た め、簿 記 論 Ⅲ (中 級) も 履 修 し て い る 必 要 が あ る。									
授 業 目 標 : 日 商 簿 記 2 級 レベル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿 記 論 Ⅲ (中 級) の 復 習 前 期 に 扱 っ た 内 容 の 復 習 を す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
2	リ ー ス 会 計 リ ー ス 取 引 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
3	外 貨 建 取 引 外 貨 建 取 引 の 換 算 と 二 取 引 基 準 等 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
4	税 効 果 会 計 課 税 所 得 と 税 効 果 会 計 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
5	決 算 1 (決 算 整 理 後 残 高 試 算 表 の 作 成) 決 算 整 理 後 残 高 試 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
6	決 算 2 (精 算 表 の 作 成) 第 5 回 に つ づ い て、精 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
7	決 算 3 (財 務 諸 表 の 作 成) 第 6 回 に つ づ い て、財 務 諸 表 の 作 成 を 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
8	本 支 店 会 計 1 決 算 ま で の 処 理 を 理 解 し た う え で、本 支 店 会 計 を 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
9	本 支 店 会 計 2 第 8 回 に つ づ い て、本 支 店 会 計 の 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
10	本 支 店 会 計 3 第 9 回 に つ づ い て、本 支 店 会 計 の 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
11	連 結 会 計 1 (開 始 仕 訳) 連 結 財 務 諸 表 の 作 成 に 必 要 な 開 始 仕 訳 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
12	連 結 会 計 2 (連 結 精 算 表 の 作 成) 開 始 仕 訳 を 理 解 し た う え で、連 結 精 算 表 を 作 成 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
13	連 結 会 計 3 (連 結 財 務 諸 表 の 作 成) 第 12 回 に つ づ い て、連 結 財 務 諸 表 を 作 成 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
14	連 結 会 計 4 第 13 回 に つ づ い て、連 結 会 計 に つ い て 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
15	問 題 演 習 後 期 授 業 内 容 の 理 解 度 を み る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		問 題 演 習 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
滝 澤 な な み 『み ん な が 欲 し っ た 簿 記 の 教 科 書 日 商 2 級 商 業 簿 記』、TAC。 渡 辺 裕 恒 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 試 験 (100%) で 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ホスピタリティとは何かを理解することにより、理論的な手法により自身を見直し対人関係をよりよくするための実践的な講義である。									
授業目標： ①ホスピタリティのあり方を理解する ②自身を今一度理解する ③人間関係のあり方を理解する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	ホスピタリティの体系・ホスピタリティとサービスの語源と意味：ホスピタリティ、サービス、おもてなしなど語源及び関連用語の関係性について理解する。					事前：ホスピタリティに関する資料収集 事後：自身でのホスピタリティの体系化		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
3・4	自分を知る：自分の資質を理解することについて学修する。 ・自己開示・自己発見など自分を理解する方法について学修する。 ・自分の魅力を引き出す方法について学修する。					事前：自身の性格と向き合う 事後：自身の性格の長所・短所について理解する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
5・6	相手を理解する：相手の特性・個性、相手を受け止める自分について学修する。					事前：友人・知人に対する理解度について考えてみる。 事後：改めて他人の良い点について理解する。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
7・8	自分と相手の関係を知る：反射の原則、教官の原則、バーバル・ノンバーバルにおける伝達の方法について学修する。					事前：友人・知人との関係について考えてみる。 事後：他人とのより良い関係の構築について考えてみる。		(各講義) 講義 50分 ワークショップ 20分 小テスト 20分	
9・10	サービス産業とホスピタリティ：サービス産業におけるホスピタリティ産業のあり方を理解する。					事前：ホスピタリティとはについて復習しておく。 事後：産業におけるホスピタリティとサービスの違いについて体系的にまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
11	顧客満足 (CS) と従業員満足 (ES)：顧客満足度及び従業員満足度との関係を理解する。					事前：満足度とは何かの考察 事後：CSとESとの関係について体系的にまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
12・13	リッツカールトンとクレド：①リッツカールトンにおけるクレドと運営理念及びクレドの内容と意義について理解する。					事前：リッツカールトンについて調査する。 事後：クレドの意義についてまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
14	スターバックスと権限：スターバックスにおけるマニュアルと従業員の権限に基づくホスピタリティのあり方について学修する。					事前：スターバックスについて調査する。 事後：マニュアルのあり方についてまとめる。		(各講義) 講義 70分 小テスト 20分	
15	ホスピタリティ・コーチング：ホスピタリティ教育の指導の仕方を理解する。					事前：授業全体の復習 事後：サービス産業の特徴についての体系的まとめ		講義 70分 小テスト 20分	
教本： なし					参考文献： 講義において随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点50%、定期試験50%等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、単に学修するだけでなく、自身を改めて見直しより良い対人関係を生み出すための実践でもある。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「ホスピタリティとは何なのか」「ホスピタリティ・マインドを持つためにはどうしたら良いのか」「ホスピタリティと社会」といった大きく3つの視点からホスピタリティのあるべき姿を考察します。									
授業目標： (1) ホスピタリティを理解する。 (2) ホスピタリティ・マインドを持つ人間として成長する。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
2	ホスピタリティ関連諸概念の整理					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
3	ホスピタリティの現実					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
4	ホスピタリティの歴史					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
5	ホスピタリティのサービス					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
6	サービス概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
7	サービスの特性					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
8	サービス・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
9	サービス・デリバリー・システム					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
10	関係性概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
11	信頼概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
12	トライアド・モデル					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
13	現場レベルのホスピタリティ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
14	組織レベルのホスピタリティ・マネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
教本： 徳江順一郎『ホスピタリティ・マネジメント』同文館出版 第3版					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験 (60%)、レポートおよび小テスト (20%)、平常点 (20%)。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： 単に学修するだけではなく、自身をあらためて見直し、より良き対人関係を構築できるよう実践していきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホ テ ル 経 営 論 I (Hotel Management Theory I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 信 次								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
観 光 産 業 の 概 況 (観 光 産 業 の 動 向 と 宿 泊 産 業)、ホ テ ル 産 業 の 概 要 (ホ テ ル の 定 義 ・ ホ テ ル 産 業 の 分 類 ・ ホ テ ル の 組 織)、ホ テ ル 経 営 者 と し て 必 要 な 基 本 知 識 (国 際 的 な 習 慣 ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ 関 連 知 識 ・ ホ テ ル 英 語 の 基 本)、宿 泊 部 門 (宿 泊 商 品 の 特 性 ・ 組 織 と 業 務 役 割)、宿 泊 部 門 の 実 務 (宿 泊 約 款 と 利 用 規 則 ・ 施 設 設 備 ・ 宿 泊 商 品 ・ 主 な 担 当 者 の 業 務) に つ い て 学 習 す る。									
授 業 目 標 :									
1. ホ テ ル に つ い て の 基 礎 ・ 専 門 知 識 を 学 び、そ の 経 営 に 関 心 を 持 つ よ う に す る。 2. 「ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ マ イ ン ド」 を 身 に つ け る。 3. 「社 会 人 と し て の 基 本 的 な マ ナ ー ・ 知 識」 を 身 に つ け る。(授 業 開 始 時、終 了 時 に 挨拶 の 練 習 を 実 施)									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 「自 己 紹 介」・「シ ラ バ ス」・「受 講 の 留 意 点」・「成 績 評 価 方 法 と 基 準 点」・「オ フ ィ ス ア ワ ー」・「挨拶 の 練 習」 に つ い て 説 明 す る。					事 前：シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後：次 回 授 業 の 予 習		オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 60 分、 質 疑 応 答 30 分	
2	世 界 の 観 光 動 向、世 界 の 宿 泊 産 業 (欧 州 ・ 米 国 ・ ア ジ ア) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P 2 ~ 7) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
3	日 本 の 観 光 動 向、日 本 の 宿 泊 産 業 に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P 8 ~ 15) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
4	ホ テ ル 産 業 の 概 要 (ホ テ ル の 定 義 ・ ホ テ ル 産 業 の 分 類) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P16 ~ 20) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
5	ホ テ ル 産 業 の 概 要 (ホ テ ル の 組 織)、ホ テ ル 経 営 の 推 進 力 に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P21 ~ 22) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
6	ホ テ ル 経 営 者 と し て 必 要 な 基 本 知 識 (国 際 的 な 習 慣 ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P23 ~ 28) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
7	ホ テ ル 経 営 者 と し て 必 要 な 基 本 知 識 (関 連 団 体 ・ 関 連 法 規 他) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P28 ~ 31) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
8	ホ テ ル 英 語 の 基 本、ホ テ ル の 経 営 形 態 に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P32 ~ 53) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
9	宿 泊 商 品 の 特 性 (制 約 要 件 ・ 市 場 要 件 ・ 収 益 性)、組 織 と 業 務 役 割 に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P58 ~ 61) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
10	宿 泊 部 門 の 基 本 知 識 (宿 泊 約 款 と 利 用 規 則) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P62 ~ 65) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
11	宿 泊 部 門 の 基 本 知 識 (施 設 設 備 ・ 宿 泊 商 品) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P66 ~ 73) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
12	宿 泊 部 門 の 主 な 担 当 者 の 業 務 (ユニ フォ ム ・ サ ー ビ ス 係) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P73 ~ 76) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
13	宿 泊 部 門 の 主 な 担 当 者 の 業 務 (フ ロ ン ト ・ オ フ ィ ス 係) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P76 ~ 79) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
14	宿 泊 部 門 の 主 な 担 当 者 の 業 務 (ル ー ム リ ザ ー ベ ー シ ョ ン 係 ・ ア シ ス タ ン ト マ ネ ー ジ ャ ー 係 ・ コ ン シ ュ ル ジ ュ 係 ・ テ レ フ ォ ン オ ペ レ ー タ ー 係) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P79 ~ 82) 事 後：次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
15	宿 泊 部 門 の 主 な 担 当 者 の 業 務 (ハ ウ ス キ ー ピ ン グ 係) 半 期 授 業 の 総 括。 授 業 の ポ イ ン ト に つ い て 説 明 し 理 解 度 を 確 認 す る。					事 前：授 業 の 予 習 (教 科 書 P82 ~ 84) 事 後：ポ イ ン ト を 整 理 す る		講 義 60 分、質 疑 応 答 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「ホ テ ル ビ ジ ネ ス」 (日 本 ホ テ ル 教 育 セ ン タ ー ¥ 5,000)					必 要 な 資 料 を そ の 都 度 配 信 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平 常 点 (15%)、小 テ ス ト ・ 課 題 等 (20%)、定 期 試 験 の レ ポ ー ト (65%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
理 解 でき ない 点 や 講 義 内 容 に ない こと で も、お 気 軽 に 聴 いて くだ さい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 へ る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホ テ ル 経 営 論 Ⅱ (Hotel Management Theory II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 信 次								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ホ テ ル 経 営 論 Ⅰ に 引 き 続 き、ホ テ ル 経 営 の 観 点 か ら 料 飲 部 門、宴 会 部 門、調 理 部 門、マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 部 門、総 務 ・ 人 事 部 門、施 設 管 理 部 門、仕 入 れ ・ 購 買 部 門、経 理 ・ 会 計 部 門 に つ い て 学 習 す る。									
授 業 目 標 : 1. ホ テ ル に つ い て の 基 礎 ・ 専 門 知 識 を 学 び、そ の 経 営 に 関 心 を 持 つ よ う に す る。 2. 「ホ ス ビ タ リ テ ィ ・ マ イ ン ド」 を 身 に つ け る。 3. 「社 会 人 と し て の 基 本 的 な マ ナ ー ・ 知 識」 を 身 に つ け る。(授 業 開 始 時、終 了 時 に 挨拶 の 練 習 を 実 施)									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 「自 己 紹 介」・「シ ラ バ ス」・「受 講 の 留 意 点」・「成 績 評 価 方 法 と 基 準 点」・「オ フ ィ ス ア ワ ー」・「挨拶 の 練 習」に つ い て 説 明 す る。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 60 分、 質 疑 応 答 30 分	
2	料 飲 部 門 の 概 要 料 飲 商 品 の 特 性 (制 約 要 件、立 地 ・ 施 設 要 件、嗜好 ・ 経 費 面)、組 織 と 業 務 役 割 (組 織、役 職 者 ・ 担 当 者 呼 称、レ ス ト ラ ン 課 ・ 飲 料 課 ・ 料 飲 事 務 の 業 務)、基 本 知 識 (業 種 ・ 業 態、施 設 ・ 設 備 ・ 備 品、食 材 ・ 飲 材) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P88 ~ 105) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
3	基 本 知 識 (メ ニ ュ ー、サ ー ビ ス 方 法、食 品 衛 生、苦 情 処 理 と 緊 急 対 応)、主 な 担 当 者 の 業 務 (マ ネ ー ジ ャ ー、グ リ ー タ ー ・ グ リ ー ト レ ス、ウ ェ イ タ ー ・ ウ ェ イ ト レ ス、飲 料 担 当 者) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P105 ~ 121) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
4	宴 会 部 門 の 概 要 宴 会 商 品 の 特 性、(制 約 要 件、施 設 ・ 設 備、経 営 面)、組 織 と 業 務 役 割 (組 織、役 職 者 ・ 担 当 者 呼 称、宴 会 予 約 課、宴 会 サ ー ビ ス 課、そ の 他)、基 本 知 識 (宴 会 の 種 類、施 設 ・ 設 備 ・ 備 品、サ ー ビ ス 方 法) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P126 ~ 138) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
5	基 本 知 識 (冠 婚 葬 祭、プ ロ ト コ ル、宴 会 約 款)、主 な 担 当 者 の 業 務 (ブ ッ ク ・ コ ン ト ロ ー ラ ー、プ ラ イ ダ ル ・ サ ロ ン、宴 会 レ セ プ シ ョ ン 係、宴 会 サ ー ビ ス 係、宴 会 ス チ ュ ワ ー ド 係、宴 会 ク ロ ー ク 係、バ ン ケ ッ ト ・ ホ ス テ ス、宴 会 バ ー テ ン ダ ー、介 添 え 係) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P139 ~ 151) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
6	調 理 部 門 の 概 要 調 理 部 門 の 特 性 (制 約 要 件、メ ニ ュ ー 開 発、経 費 面)、組 織 と 業 務 役 割 (組 織、役 職 者 ・ 担 当 者 呼 称、メ イ ン キ ッ チ ン 課、宴 会 調 理 課、レ ス ト ラ ン 調 理 課、製 菓 ・ 製 パ ン 課)、基 本 知 識 (調 理 の 種 類 と 特 徴、施 設 ・ 設 備 ・ 備 品、調 理 の 方 法) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P156 ~ 169) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
7	基 本 知 識 (西 洋 料 理、顧 客 志 向、食 品 衛 生)、主 な 担 当 者 の 業 務 (ブ ッ チ ャ ー 係、ソ ー ス 係、ガ ル ド マ ン ジ ェ 係、ペ ー ス ト リ ー 係、ペ ー カ リ ー 係、ス ト ー プ 前、バ ン ト リ ー 係) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P169 ~ 182) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
8	マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 部 門 の 概 要 組 織 と 業 務 役 割 (組 織、営 業 企 画 課、セ ー ル ス 課)、売 り 上 げ 予 算 の 作 成 業 務 (客 室 売 り 上 げ、宴 会 売 り 上 げ)、基 本 知 識 (マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 戦 略、商 品 化 計 画) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P186 ~ 205) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
9	基 本 知 識 (顧 客 管 理、各 種 マ ネ ジ メ ン ト)、主 な 担 当 者 の 業 務 (宴 会 セ ー ル ス 係、宿 泊 セ ー ル ス 係、婚 礼 セ ー ル ス 係、広 報 ・ 宣 伝 係、企 画 係、顧 客 管 理 係) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P206 ~ 214) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
10	総 務 ・ 人 事 部 門 の 概 要 組 織 と 業 務 役 割 (組 織、総 務 業 務、人 事 業 務)、基 本 知 識 (総 務 課) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P218 ~ 224) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
11	基 本 知 識 (人 事 課)、基 本 知 識 (総 務 部 門、人 事 部 門) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P224 ~ 235) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	
12	施 設 管 理 部 門 の 概 要 組 織 と 業 務 役 割 (組 織、使 命 と 責 務、業 務) 基 本 知 識 (主 要 設 備 と 付 帯 設 備、省 エ ネ と エ ネ ル ギ ー 管 理、ISO 活 動 へ の 取 り 組 み と 運 用、IT 設 備、廃 棄 物 処 理 管 理、具 体 的 省 エ ネ)、関 係 法 令 (ビ ル 衛 生 管 理 法、省 エ ネ 法、電 気 事 業 法、建 築 基 準 法、消 防 法、大 気 汚 染 防 止 法、そ の 他)、関 係 資 格 に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P240 ~ 256) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20 分、 講 義 40 分、質 疑 応 答 30 分	

13	仕入れ・購買部門の概要 組織と業務役割 (組織、業務)、基本知識 (食品衛生、仕入れ)、主な担当者の業務 (仕入れ、在庫管理、情報収集と管理、商品管理) について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 (教科書 P260～279) 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分
14	経理・会計部門の概要 組織と業務役割 (組織、経理課、収納課、クレジット課)、基本知識 (知っておきたい常識、業務の特徴、収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税) について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 (教科書 P284～300) 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分
15	主な担当者の業務 (宿泊部門、料飲部門、宴会部門、その他部門の会計実務) 半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 (教科書 P88～300) 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本： 「ホテルビジネス」(日本教育センター) ￥5,000		参考文献： 必要な資料をその都度配信する。	
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (15%)、小テスト (20%)、定期試験のレポート (65%)、等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 指定の教科書で事前・事後学習してください。理解できない点は授業で質問してください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホ テ ル サ ー ビ ス 実 務 (Practice for Hotel Service)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 信 次								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
ホ テ ル の 基 本 的 性 格 、ホ テ ル 業 の 分 類 、ホ テ ル の 経 営 、組 織 、ホ ス ビ タ リ ティ と サ ー ビ ス 、顧 客 満 足 、従 業 員 満 足 、品 質 管 理 、ホ テ ル の 評 価 、ホ テ ル ス タ ッ プ の サ ー ビ ス ト レ ー ニ ン グ と 評 価 、ホ テ ル ス タ ッ プ の 基 本 マ ナ ー 、接 客 サ ー ビ ス (宿 泊 部 門 、料 飲 部 門 、食 堂 部 門 、宴 会 部 門 、調 理 部 門)、ホ テ ル の 付 帯 サ ー ビ ス に つ い て 学 習 す る 。									
授 業 目 標 :									
1. ホ テ ル サ ー ビ ス 全 般 を 学 び 、ホ テ ル 運 営 に 関 心 を 持 つ よ う に す る 。									
2. 「ホ ス ビ タ リ ティ ・ マ イ ン ド」を 身 に つ け る 。									
3. 「社 会 人 と し て の 基 本 的 な マ ナ ー ・ 知 識」を 身 に つ け る 。(授 業 開 始 時 、終 了 時 に 挨拶 の 練 習 を 実 施)									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画 、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 「自 己 紹 介」・「シ ラ バ ス」・「受 講 の 留 意 点」・「成 績 評 価 方 法 と 基 準 点」・「オ フ ィ ス ア ワ ー」・「挨拶 の 練 習」に つ い て 説 明 す る。 ホ テ ル の 基 本 的 性 格 。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 60分、 質 疑 応 答 30分	
2	ホ テ ル 業 の 分 類 立 地 に よ る 分 類 (都 市 、郊 外 、リ ゴ ー ト)、形 態 に よ る 分 類 (経 営 形 態 、資 本 形 態)、ホ テ ル の 経 営 (基 本 理 念 、営 業 方 針 、サ ー ビ ス マ ネ ジ ム ン ト) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P1~15) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
3	ホ テ ル の 組 織 (日 本 の ホ テ ル 、外 国 経 営 の ホ テ ル 、日 本 と 外 国 経 営 の 違 い 、ホ テ ル の 構 造) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P15~31) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
4	ホ ス ビ タ リ ティ と サ ー ビ ス (ホ ス ビ タ リ ティ の 原 点 、サ ー ビ ス の 特 性 、サ ー ビ ス の 分 類 、良 い サ ー ビ ス)、顧 客 満 足 (特 性 と サ ー ビ ス)、従 業 員 満 足 (従 業 員 満 足 と サ ー ビ ス)、自 己 啓 発 、品 質 管 理 (品 質 管 理 と 向 上 の ス テ ッ プ)、ホ テ ル の 評 価 (お 客 様 の 声 、評 価 内 容) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P33~48) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
5	ホ テ ル ス タ ッ プ の サ ー ビ ス ト レ ー ニ ン グ サ ー ビ ス マ ニ ュ ー ル の 活 用 (必 要 性 、作 成 、OJT で の 活 用)、日 本 の サ ー ビ ス ト レ ー ニ ン グ に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P49~63) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
6	外 国 経 営 ホ テ ル の ト レ ー ニ ン グ 、コ ン ピ ュ ー タ ー シ ス テ ム の 活 用 に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P63~77) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
7	仕 事 の 評 価 (日 本 の ホ テ ル の 評 価 制 度 、外 国 の ホ テ ル の 評 価 制 度) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P77~94) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
8	ホ テ ル ス タ ッ プ の 基 本 マ ナ ー (身 だ し な み 、ユ ニ フ ォ ー ム の 自 己 管 理 、言 葉 づ か い 、表 情 と 動 作 、電 話 の 応 対 、職 場 の 規 律) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P85~94) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
9	接 客 サ ー ビ ス 宿 泊 部 門 (特 色 、組 織 と 業 務 の 流 れ 、フ ロ ン ト オ フ ィ ス の 仕 事 : 宿 泊 予 約 、レ セ プ シ ョ ン 、イ ン フ ォ メ ー シ ョ ン 、キ ャ ッ シ ャ ー 、ア シ ス タ ン ト マ ネ ー ジ ャ ー ・ ナ イ ト マ ネ ー ジ ャ ー) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P95~111) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
10	フ ロ ン ト サ ー ビ ス の 仕 事 (ド ア マ ン ・ ド ア ガ ー ル 、ベ ル マ ン ・ ベ ル ガ ー ル 、ク ロ ー ク 、ゲ ス ト リ レ ー シ ョ ン ズ ・ コ ン シ ュ ル ジ ュ)、ハ ウ ス キ ー ピ ン グ の 仕 事 (客 室 管 理 事 務 所 、ハ ウ ス キ ー パ ー 、チ ャ ッ カ ー) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P111~128) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
11	料 飲 部 門 (特 色 と 組 織)、食 堂 部 門 (特 色 、組 織 と 業 務 の 内 容) レ ス ト ラ ン ・ バ ー の 種 類 、レ ス ト ラ ン ・ バ ー の 仕 事 (サ ー ビ ス の 心 得 、仕 事 の 流 れ 、サ ー ビ ス の 種 類 、コ ス ト 意 識)、フ レ ン チ レ ス ト ラ ン の サ ー ビ ス (従 業 員 の 役 割 、テ ー ブ ル サ ー ビ ス の 種 類 、仕 事 の 手 順) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P128~147) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	
12	レ ス ト ラ ン の 業 務 知 識 (メ ニ ュ ー 、料 理 の 分 類 、酒 類 の 分 類 、テ ー ブ ル ク ロ ス と ナ プ キ ン 、食 器 と 備 品 の 種 類 、テ ー ブ ル セ ッ ティ ン グ)、バ ー の 業 務 知 識 (組 織 、従 業 員 の 役 割 、バ ー の サ ー ビ ス 、備 品 、仕 事 の 手 順) に つ い て 小 テ ス ト ・ 課 題 を 記 入 後 、質 疑 応 答 し な が ら 進 め る 。					事 前 : 授 業 の 予 習 (教 科 書 P147~167) 事 後 : 次 回 授 業 の 予 習		小 テ ス ト ・ 課 題 20分、 講 義 40分、質 疑 応 答 30分	

13	宴会部門（特色と業務の流れ）、宴会予約の仕事（心得、仕事の流れ、業務、主な宴会の種類、婚礼の受注、キャンセルの取り扱い）、宴会サービスの仕事（心得、業務知識、サービスの要領、婚礼サービス、その他の宴会サービス）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 （教科書 P167～188） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分
14	調理部門（特色と業務の流れ）、調理の仕事（料飲調理、宴会調理、仕込み調理、製菓調理、調理事務所、スチュワード）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 （教科書 P188～192） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分
15	ホテルの付帯サービス 施設サービス（客室フロアー、その他）、人的サービス（客室内、客室外）半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 （教科書 P193～196） 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本： 「わかりやすいホテルのサービス実務」（柴田書店 ￥5,000）		参考文献： 必要な資料をその都度配信する。	
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ボランテア論 (Volunteer)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 「ボランティア論」は現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とし、学生たちの自主性と社会参加意思を高める授業である。大きな災害が起きたときは、国や自治体などの公共機関のほかに、ボランティア団体による活動が、被災地の救援や救護、復旧に大きな役割をはたしている。本講義は改めて防災への関心を喚起し、意識を高める必要があるという考えのもと展開している。また、救急救命講習を受ける学生が増えている現状も鑑み、救援活動の実践的な学習を通じて、ボランティア活動の内容や知識が身に付くよう授業を行う。単なる座学の学習に終わらせず、厚木市社会福祉協議会で登録している大学の任意団体「松蔭大学地域ボランティア」の準隊員として、課外の自由時間で実際にボランティア活動（15時間以上）を体験することを通じてボランティアの世界を味わい、自分なりの「ボランティア論」を作り上げ、21世紀を生きる我々の生き方をともに考えることを目指す。									
授業目標： 松蔭大学建学精神「知行合一」の理解と地域貢献による自分なりの考え方をもちながら、具体的な達成目標としてはさしあたり次のようなことを考えているので、各自、自分なりの学習目標を設定して受講してください。 <ol style="list-style-type: none"> ① ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返り、自分のボランティア・イメージを検証する ② ボランティアの基本的な理念を理解する ③ ボランティアのいくつかの活動分野について知る ④ ボランティアを受ける側の考えとニーズを理解する ⑤ ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する ⑥ 災害と防災に関する基礎知識を修得し災害対応能力の基礎を養う ⑦ 21世紀におけるボランティアの社会的意義について考える ⑧ ボランティアに関する自分なりの考え方を確立する 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（開講の趣旨、学習の進め方、約束事）ボランティアの理念を講ずる。					事前：なし 事後：配布資料を次回までざっと読む		講義90分	
2	ボランティアの意義を考える。ボランティアの四原則について理解する。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
3	配布資料「ボランティアの楽しさ」を読み考える。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
4	大学におけるサービスマーケティングとボランティア教育					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
5	観光ボランティアと労働					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義60分、 ディスカッション30分	
6	無償ボランティアと有償ボランティア					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
7	災害ボランティア。厚木市の現状と防災対策【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】（ゲストスピーカー）					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
8	ワークショップ・クロスロード【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義20分、実習50分、 ディスカッション20分	
9	被災地での活動（福島県浪江町、南相馬市、二本松市）報告					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
10	イギリスにおけるギャップイヤー（Gap Year）の成立と発展。日英ギャップイヤー					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
11	厚木市消防本部と連携、「救急救命講習」を学習（e-learning）					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義90分	
12	ワークショップ：避難所運営シミュレーション・HUG					事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む		講義70分、 ディスカッション20分	
13	ボランティア活動は主体的・自律的で相互実現を図る活動・花田えくは氏の詩。最終レポート指示					事前：配布資料の事前読む 事後：発表準備、最終レポート準備		講義50分、 ディスカッション40分	
14	ボランティアについて考えこと、体験活動成果発表その1（グループごと）。感じたことをノートにまとめ、復習シート配布					事前：発表準備 事後：発表準備		講義20分、 発表準備70分	
15	ボランティア体験活動成果発表その2（グループごと）。「自己評価シート」を提出。ボランティア体験活動報告書提出					事前：発表準備 事後：最終レポート準備		講義20分、発表70分	

教本： 資料配布	参考文献： ・ケン・アレン、『ボランティアが変える世界』アルク ・金子郁容、『ボランティアもうひとつの情報社会』岩波新書								
成績評価の方法、評価基準： 1. 授業には極力すべて出席すること 2. ボランティア体験活動（課外活動）が要求しないが、15時間以上行った場合には評価の上加点する。 3. 以下の4項目を参考にしながら、各自の自己評価を尊重して評価する。 ただし、ボランティア体験活動についての評価ではなく、ボランティアについて学んだ内容に関して評価する。 <table border="0" data-bbox="215 369 1036 479"> <tr> <td>平常点（実施するミニレポートの内容）：</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）</td> <td>（ボーナスポイント）</td> </tr> <tr> <td>最終レポート（1,200字以上の分量と内容）</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）</td> <td>20%</td> </tr> </table>		平常点（実施するミニレポートの内容）：	30%	ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）	（ボーナスポイント）	最終レポート（1,200字以上の分量と内容）	50%	提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）	20%
平常点（実施するミニレポートの内容）：	30%								
ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）	（ボーナスポイント）								
最終レポート（1,200字以上の分量と内容）	50%								
提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）	20%								
学生へのアドバイス： 授業についての質疑、活動の交流・討論など、ボランティア学習にふさわしい受講生の積極的な授業参加を期待する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									